Canon

PowerShot G7X Mark III

活用ガイド

目次
基本的な使いかた
撮影
再生
無線機能
機能設定
アクセサリー
付録
索引

日本語

この使用説明書は、PowerShot G7X Mark III のファームウェアが Ver.1.3.0 以上であることを前提に説明しています。

CT0-D225-I

© CANON INC. 2026

お使いになる前にお読みください

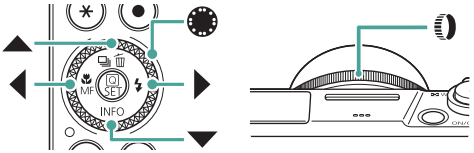
- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一、カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、修理受付窓口へご相談ください。
- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではないため、記録される画像には影響ありません。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

本書の見かた

- トップページの右端にある章のタイトルをクリックすると、各章の先頭ページに移動します。
- ページ下部のアイコンをクリックすると、ページを移動できます。
  - ：トップページに移動します。
  - ：ひとつ前に表示したページに戻ります。
  - ：前ページに移動します。
  - ：次ページに移動します。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 撮影の操作説明では、どのモードでの説明かを示すタブ（例：AUTO）を記載しています。タブで示したモード以外でも設定可能な場合があります。
- ：知っておいていただきたい重要事項や、上手に使うためのヒントを示しています。

文章中の表記

- カメラのボタンやダイヤルは、ボタンやダイヤルに表記されている絵文字を使って示しています。
- 次の操作部は、絵文字で示しています。



- 画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- 図やイラストの中には、手順に沿った番号が記載されているものがあります。
- 📖 xx：参照ページを示しています。xx はページ数を示しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

目次

お使いになる前にお読みください....2
本書の見かた....3
文章中の表記....3
やりたいこと目次....13
安全上のご注意....16
基本的な使いかた....19
準備する....20
ストラップを付ける....20
バッテリーを充電する....21
カード（市販品）を準備する....22
バッテリーとカードを入れる／取り出す....23
日付／時刻／エリアと言語を設定する....25
カメラを構える....28
使ってみる....29
撮る....29
見る....31
各部のなまえ....32
前面....32
背面....33
モニターの向きや角度の変えかた....34
下向きに開く....34
上向きに開く....34
ランプの表示....35
撮影モードを選ぶ....36
カメラの機能を設定する....37
クイック設定画面の使いかた....37
MENU（メニュー）の使いかた....39
クイック設定画面で設定できる機能....41

MENU（メニュー）の設定項目一覧 42
撮影モードの画面 44
撮影画面に表示される枠 45
撮影時の画面表示の切り換えかた 46
再生時の画面表示の切り換えかた 47
タッチ操作 48
被写体を選ぶ 48
クイック設定画面の使いかた 49
MENU（メニュー）の使いかた 50
見る 52
文字の入力方法 54
撮影 55
カメラまかせで撮る
（オートモード／プラスムービーオートモード） 56
手ブレ補正アイコン 59
効果を付けて撮る（クリエイティブアシスト） 60
プラスムービーオートで撮る 62
いろいろなシーンで撮る（スペシャルシーンモード） 63
自分撮りに最適な設定で撮る（自分撮りモード） 67
パノラマショットを撮る（パノラマモード） 68
背景が流れるような写真を撮る（流し撮りモード） 70
星空と人を一緒に撮る（星空ポートレートモード） 71
星空と夜景を撮る（星空夜景モード） 74
星が動いた軌跡を撮る（星空軌跡モード） 76
星の動きを撮る（星空タイムラプス動画モード） 78
いろいろな効果をつけて撮る
（クリエイティブフィルターモード） 82
ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風） 87
いろいろな動画を撮る（動画モード） 88
Video Blog を撮る（Video Blog 撮影モード） 89

シャッタースピードと絞り数値を決めて動画を撮る（動画マニュアル露出）.....90
HDR 動画を撮る.....91
プログラム AE で撮る（P モード）.....92
シャッタースピードを決めて撮る（Tv モード）.....93
絞り数値を決めて撮る（Av モード）.....94
シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る（M モード）.....95
長時間露光（バルブ）撮影.....97
被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）.....98
明るさ（露出）を固定する（AE ロック）.....99
近くの被写体を撮る（マクロ撮影）.....100
マニュアルフォーカスで撮る.....101
ピント合わせをしやすい表示にする（MF ピーキング）.....103
AF ロックで撮る.....104
焦点距離を指定して撮る（ステップズーム）.....105
記録画質を変える.....106
RAW 画像を記録する.....106
縦横比（アスペクト比）を変える.....108
撮影直後の画像表示時間を変える.....109
ストロボモードを変える.....110
ストロボ撮影時に明るさ（露出）を固定する（FE ロック）.....111
ストロボに関する機能を設定する.....113
ストロボの調光量を補正する.....113
ストロボ発光量を設定する.....114
ストロボ発光のタイミングを変える.....115
赤目緩和機能を使う.....115
セイフティ FE を設定する.....116
連続して撮る.....117
セルフタイマーを使う.....118

RAW バーストモードで撮る 119
日付を写し込む 121
明るさを変える（露出補正） 122
　露出を自動的に変えて撮る（AEB 撮影） 123
静止画の ISO 感度を変える 125
　ISO 感度の範囲を変える 125
　ISO オートの範囲を変える 126
　ISO オート時のシャッタースピードの低速限界を設定する 126
動画の ISO 感度を変える 128
　ISO 感度の範囲を変える 128
　ISO オートの上限を変える 129
明るさ・コントラストを自動補正する
（オートライティングオプティマイザ） 130
明るい被写体を撮影する（高輝度側・階調優先） 131
ND フィルターの設定を変える 132
測光方式を変える 133
測光タイマーを設定する 134
露出調整をしやすい表示にする（ゼブラ設定） 135
露出 Simulation 機能を設定する 136
自然な色あいにする（ホワイトバランス） 137
　マニュアルホワイトバランス 139
好みの色あいを選ぶ（ピクチャースタイル） 141
ピクチャースタイルを自分の好みに調整する 143
好みのピクチャースタイルを登録する 146
高感度撮影時のノイズを低減する 147
　マルチショットノイズ低減機能を使う 147
画面をタッチして撮る（タッチシャッター） 149
電子シャッターで撮る 150
サーボ AF で撮る 151
AF 方式を選ぶ 152

AF フレームの位置を変える 153
フォーカス設定を切り換える 154
AF 補助光（ランプ）の投光を設定する 155
自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う（フォーカスブラケット撮影） 156
ピントを微調整する 159
手ブレ補正の設定を変える 160
非常に強い手ブレを補正する 161
自動水平補正を使う 162
デジタルテレコンバーターを使う 163
動画の記録サイズを変える 164
スロー再生に適した動画を撮る（ハイフレームレート） 165
録音に関する設定をする 166
録音レベル（録音音量）を設定する 166
ウィンドカット 167
アッテネーター 167
動画サーボ AF を設定する 168
動画オートスローシャッターを使う 169
ミニチュア模型のような動画を撮る（ジオラマ風動画） 170
ビデオスナップを撮る 172
タイムラプス動画を撮る 174
動画で自分を撮る 176
動画セルフタイマーを使う 177
HDMI 出力時の情報表示を設定する 178
ダイジェスト形式を設定する 179
再生 180
見る 181
拡大して見る 183
短編動画（ダイジェスト動画）を見る 184

一覧表示（インデックス表示）で探す 185
動画を編集する 186
　動画の前後を削除する 186
　4K 動画のフレームを静止画として切り出す 188
　ダイジェスト動画を編集する 189
RAW バースト画像から静止画を切り出す 191
画像を保護する（画像プロテクト） 193
　まとめて保護する 194
画像を回転する 196
動画の回転情報を変更する 197
画像を消す 198
　まとめて消す 199
印刷指定（DPOF）をする 201
　印刷指定（DPOF）した画像を印刷する 202
フォトブック指定をする 203
画像にフィルター効果をつける
（クリエイティブフィルター） 204
RAW 画像を現像する 205
好みの効果を付ける（クリエイティブアシスト） 207
クイック設定で RAW 現像ができるようにする 208
赤目を補正する 209
ビデオスナップを結合して動画作品を作る 210
画像を切り抜く（トリミング） 212
画像を小さくする（リサイズ） 214
お気に入り設定をする（レーティング） 215
スライドショーで見る 216
指定した条件で画像を探す 217
コントローラーリングで画像を探す 218
再生時の情報の表示内容を設定する 219
前回の画像から再生する 220

無線機能.....221
無線機能でできること.....222
カメラ内の画像をスマートフォンに保存する.....224
Wi-Fi ボタンでスマートフォンと Wi-Fi 接続する.....228
閲覧画像を制限する.....230
スマートフォンでできること.....231
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信する.....231
スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影する.....231
スマートフォンでカメラを操作する.....232
撮影する画像に位置情報を付加する.....232
プリンターと Wi-Fi 接続する.....234
アクセスポイント（Wi-Fi 親機）経由での接続方法.....236
パソコンに画像を自動送信する.....238
Web サービスへ画像を送る.....242
image.canon を登録する.....242
image.canon に画像を送る.....245
映像をライブ配信する.....246
ライブ配信.....248
2 回目以降の Wi-Fi 接続.....252
Wi-Fi 接続を終了する.....253
Bluetooth でペアリングしている機器の登録を解除する.....254
接続設定を変更／削除する.....255
機能設定.....256
フォルダを選択／作成する.....257
画像番号を変える.....258
縦位置画像の自動回転表示を設定する.....259
動画に縦位置情報を付加する.....260
カードを初期化する.....261
起動画面の表示を設定する.....263

エコモードを使う……264
節電機能の設定を変える……265
画面の明るさを変える……266
画面に表示される情報の色を変える……267
日付／時刻／エリアを変更する……268
言語を変更する……269
レンズ収納時間を変える……270
ビデオ方式を設定する……271
タッチパネルの設定を変える……272
電子音の設定を変える……273
音量を変える……274
HDMI 出力時の解像度を設定する……275
HDR 対応テレビで RAW 画像を見る……276
撮影時の情報の表示内容を設定する……277
鏡像表示の設定を変える……279
距離表示の単位を変える……280
機能ガイドを設定する……281
カメラの詳細機能を設定する……282
　操作ボタンをカスタマイズする……283
カスタム撮影モード（C モード）……285
カメラの設定を初期状態に戻す……287
画像に記録する著作権の情報を登録する……288
QR コードから使用説明書やソフトウェアを
ダウンロードする……289
認証マークを表示する……290
よく使う撮影メニューを登録する（マイメニュー）……291
　マイメニュータブのタブ名を変える……292
　マイメニュータブを削除する……292
　マイメニュータブをすべて削除する……292
　登録項目をすべて削除する……293

マイメニューの表示方法を変える 293
アクセサリー 294
別売アクセサリー 295
電源 295
ストロボ 295
その他 296
プリンター 296
別売アクセサリーの使いかた 297
テレビで見る 297
USB 電源アダプターを使って充電／給電する 299
リモコン撮影する 301
外部マイクを使う 302
画像をパソコンに取り込む 303
印刷する 304
付録 306
日ごろの取り扱いについて 307
故障かな？と思ったら 308
画面の表示内容一覧 313
撮影時 313
再生時 315
無線機能について 317
セキュリティーについて 318
第三者のソフトウェア 319
カメラを貸出・修理依頼・譲渡・廃棄するときのご注意 322
商標、ライセンスについて 323
このガイドについて 325
索引 326

やりたいこと目次

撮る

- カメラまかせで写真を撮りたい（オートモード、プラスムービーオートモード）
  - 29、62
- 自分撮りに最適な設定で撮りたい（自分撮り）
  - 67
- パノラマ写真を撮りたい（パノラマショット）
  - 68

人を上手に撮りたい



人をきれいに
（63）

いろいろなシーンにあわせて撮りたい



手持ち夜景
（63）



花火
（63）



HDR 逆光補正
（63）



料理
（63）

効果をつけて撮りたい



肌を美しく
（63）



モノクロで
（82）



背景をぼかして
（82）


柔らかな雰囲気で
(📖82)


魚眼レンズのように
(📖82)


水彩画のように
(📖82)


トイカメラ風に
(📖82)


ミニチュア模型のように
(📖87、📖170)

- 人の顔を上手に撮りたい
  - 📖29、📖63、📖152
- ストロボ禁止の場所で撮りたい（ストロボ発光禁止）
  - 📖110
- 自分も一緒に写りたい（セルフタイマー撮影）
  - 📖118
- 画像に日付を写し込みたい
  - 📖121
- 写真と一緒に動画を記録したい
  - 📖62
- 背景が流れるようなスピード感のある画像を撮りたい
  - 📖70
- 星空を撮りたい
  - 📖71、📖74、📖76、📖78

▶ 見る

- 画像を見たい
  - 📖31、📖180
- 自動再生で見たい（スライドショー）
  - 📖216
- テレビで見たい
  - 📖297

- 画像を素早く探したい
  - 🕮185
- 画像を消したい
  - 🕮198

動画を撮る／見る

- 動画を撮りたい
  - 🕮29、🕮88
- 動画を見たい
  - 🕮31

印刷する

- 写真を印刷したい
  - 🕮304

残す

- パソコンに画像を取り込みたい
  - 🕮303

Wi-Fi 機能を使う

- スマートフォンに画像を送りたい
  - 🕮224、🕮231
- 写真を印刷したい
  - 🕮234
- Web サービスで画像を共有したい
  - 🕮242
- 映像をライブ配信したい
  - 🕮246
- パソコンに画像を送りたい
  - 🕮238

安全上のご注意

- 安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
- お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠ 警告	死亡や重傷を負うおそれがある内容です。

- **乳幼児の手の届くところに置かない。**

ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解や改造をしない。**
- **強い衝撃や振動を与えない。**
- **破損したときは、内部に触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。**
- **可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。**

感電、破裂、火災の原因となります。

- **バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。**
  - 指定外の製品で使わない。
  - 熱したり、火中投入しない。
  - 指定外の製品で充電しない。
  - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 液漏れしたものは使わない。
  - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗ったあと、すぐ医師に相談してください。

- **バッテリーチャージャーや AC アダプターを使うときは、次のことに注意する。**
  - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
  - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
  - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
  - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
  - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーや AC アダプターに触れない。
  - 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
  - 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
  - 電源に長時間つないだままにしない。

感電、破裂、火災の原因となります。

● **長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。**
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

● **使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。**
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となるおそれがあります。

⚠ 注意	傷害を負う可能性がある内容です。

● **ストロボを目に近付けて発光しない。**
目をいためる恐れがあります。

● **ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**

● **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**
けがやカメラの故障の原因となります。

● **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**
やけどや故障の原因となります。

● **製品を高温や低温となる場所に放置しない。**
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

● **使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。**

注意	物的損害を負う可能性がある内容です。

● **カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けない。**
撮像素子やカメラの内部が損傷することがあります。

● **砂浜や風の強い場所で使用するときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**

● **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**
そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

● **使用しないときは、製品からバッテリーや電池を取り外して保管する。**
液漏れにより故障の原因となることがあります。

● **バッテリーや電池を廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**
他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

● **バッテリーチャージャーを使用する製品では、使用しないときはコンセントから外す。また、布などをかけたまま使用しない。**
長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

● **専用バッテリーを使用する製品では、ペットの近くにバッテリーを置かない。**
バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

● **複数の電池を使用する製品では、充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使用しない。また、電池の「+」「−」端子を逆にして入れない。**
故障の原因となることがあります。

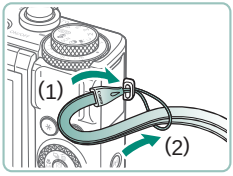
● **カードへの記録／読み出し中は、「電源を切る」、「カード／バッテリー収納部のふたを開ける」、「振動や衝撃を与える」ことはしない。**
画像が壊れて表示できなくなったり、カメラやカードが故障する原因となることがあります。

● **カードを間違った向きでカメラに入れない。**
カメラの故障の原因となることがあります。

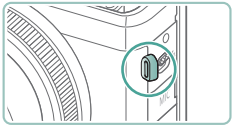
基本的な使いかた

準備から、撮影、再生までの説明や、各種の基本情報を掲載しています。

ストラップを付ける

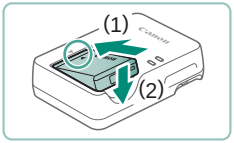


1 付属のストラップをストラップ取り付け部に取り付ける

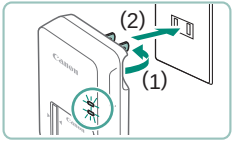


- ストラップは左手側に取り付けることもできます。

バッテリーを充電する

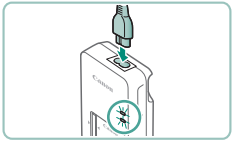


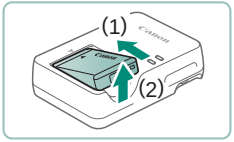
1 バッテリーをチャージャーにセットする



2 充電する

- ランプの色
  - 充電中：オレンジ
  - 充電完了：緑色





3 バッテリーを外す

- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。
- バッテリーチャージャーは、AC100 – 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。
- 充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減ります。充電は使う前日か当日にしてください。

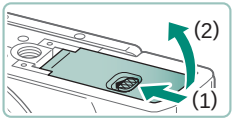
カード（市販品）を準備する

次のカードが容量に制限なくお使いになれます。

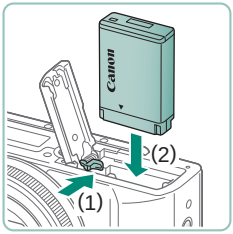
- SD メモリーカード*1
- SDHC メモリーカード*1 *2
- SDXC メモリーカード*1 *2

*1 SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。
*2 UHS-I 対応のメモリーカードも使えます。

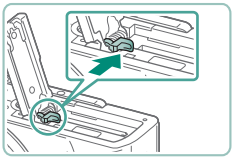
バッテリーとカードを入れる／取り出す



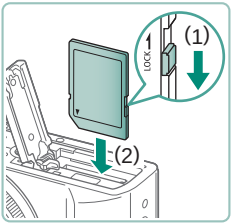
1 ふたを開ける



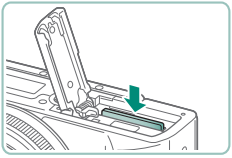
2 バッテリーを入れる



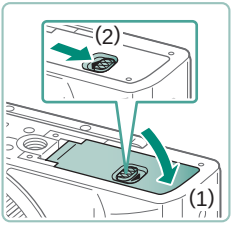
取り出すとき



3 カードを入れる



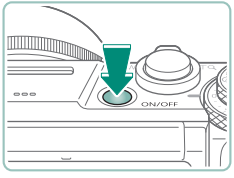
取り出すとき



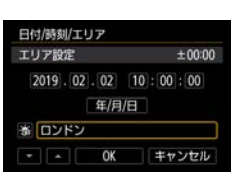
4 ふたを閉める

- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。
- 新しく買ったカードやほかのカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
- スイッチがあるカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると撮影できません。スイッチを動かしてロックを解除してください。
- ［バッテリーを交換してください］と表示されたときは、カメラの電源が自動的に切れてから、バッテリーを交換してください。

日付／時刻／エリアと言語を設定する



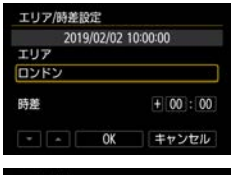
1 電源を入れる



2 エリアを設定する

- ◀／▶ボタンまたは◉ホイールでエリアを選ぶ→㊗ボタン





- ㊗ボタン



- ▲／▼ボタンまたは◉ホイールでエリアを選ぶ→㊗ボタン→◀／▶ボタンまたは◉ホイールで［OK］を選ぶ→㊗ボタン



3 日付／時刻を設定する

- ◀／▶ボタンまたは◉ホイールで日付や時刻を選ぶ→㊗ボタン→▲／▼ボタンまたは◉ホイールで設定する→㊗ボタン



- ［OK］を選ぶ→㊗ボタン



4 言語を設定する

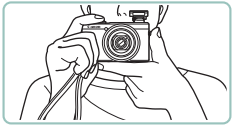
- ▲／▼ボタンで［言語］を選ぶ→㊗ボタン



- ▲／▼ボタンで言語を選ぶ→㊗ボタン

- 電源を入れたときに［日付 / 時刻 / エリア］画面が表示されたときは、現在の日時／エリアを正しく設定してください。ここで設定した情報は撮影する画像に記録され、撮影日による管理や、日付を入れて印刷するときなどに使用できます。
- 日付／時刻／エリアを設定する画面で、［☀OFF］を［☀］にすると、サマータイム（1 時間プラスされます）に設定されます。
- 日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、もう一度正しく設定してください。
- カメラの温度管理を正常に行うには、日付／時刻／エリアの設定が必要です。日付／時刻／エリアの設定を行うと、温度警告表示が適切に行われます。

カメラを構える

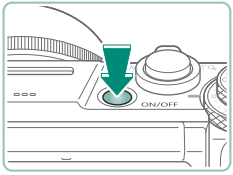


- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボを上げているときは、ストロボに指がかからないようにしてください。

使ってみる

ここでは、電源を入れてから静止画や動画を撮影し、その画像を見るまでの手順について説明しています。

撮る

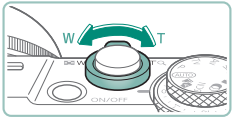


1 電源を入れる

- もう一度、電源ボタンを押すと、電源が切れます。

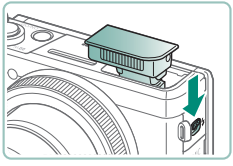


2 AUTOモードにする

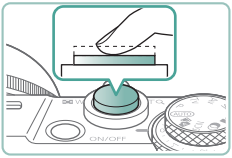


3 撮りたいものの大きさを決める

- 画面を見ながらズームレバーを操作します。



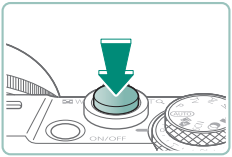
ストロボを使用するとき



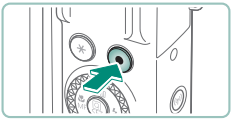
4 ピントを合わせる（半押し）



- ピントが合うと、電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。



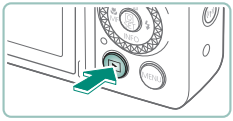
5 撮影する（全押し）



動画を撮るとき

- 撮影中は［● REC］が表示されます。
- もう一度、動画撮影ボタンを押すと、撮影が終わります。

見る



1 ▶ボタンを押す



2 画像を選ぶ



- 動画は、[SET] が表示されます。



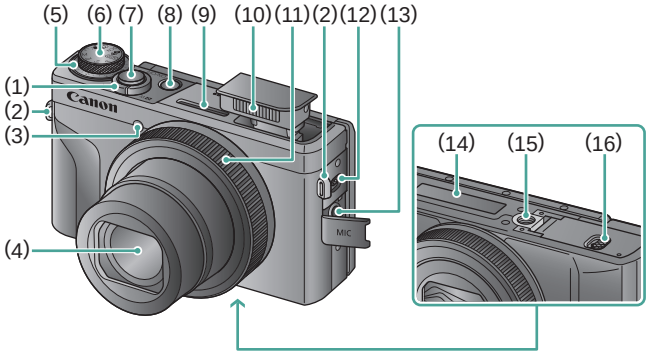
動画を再生する

- (SET)ボタン→もう一度(SET)ボタン
- ▲／▼ボタンで音量を調整します。



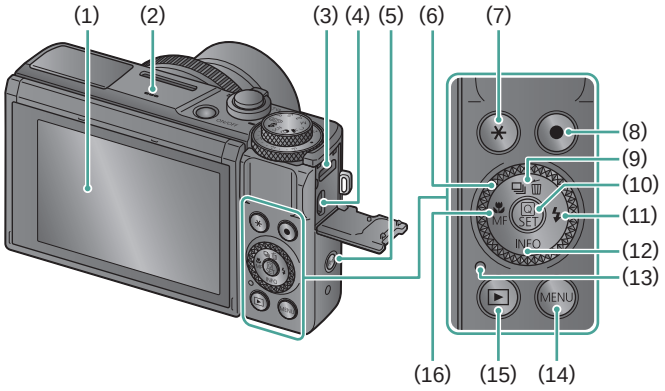
各部のなまえ

前面



(1) ズームレバー
撮影時：W（広角）／T（望遠）
再生時：▪▪▪（インデックス）／Q（拡大）
(2) ストラップ取り付け部
(3) ランプ（前面）
(4) レンズ
(5) 露出補正ダイヤル
●：割り当てポジション
(6) モードダイヤル
(7) シャッターボタン
(8) 電源ボタン
(9) マイク（ステレオ）
(10) ストロボ
(11) コントローラーリング
(リング)
(12) ϟ（ストロボアップ）レバー
(13) 外部マイク入力端子
(14) シリアル番号
(15) 三脚ねじ穴
(16) カード／バッテリー収納部ふた

背面



(1) モニター
上側に約 180°、下側に約 45°まで開きます。

(2) スピーカー

(3) DIGITAL（デジタル）端子

(4) HDMI™ 端子

(5) （Wi-Fi）ボタン

(6) コントローラーホイール
（ホイール）

(7) （AE ロック）ボタン

(8) 動画撮影ボタン
動画モード以外でも動画撮影できます。

(9) （ドライブモード）／
（1 画像消去）／
▲上ボタン

(10) （クイック設定）ボタン
クイック設定画面を表示します。選択の決定にも使用します。

(11) （ストロボ）／▶右ボタン

(12) INFO（インフォ）／▼下ボタン

(13) ランプ（背面）

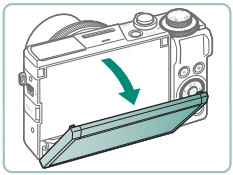
(14) MENU（メニュー）ボタン
MENU を表示します。

(15) （再生）ボタン

(16) （マクロ）／MF（マニュアルフォーカス）／◀左ボタン

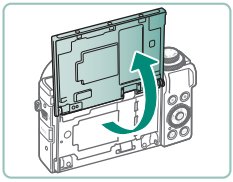
モニターの向きや角度の変えかた

下向きに開く



- 画面の上部を手前に引き下げます。
- 約 45˚まで開くことができます。

上向きに開く

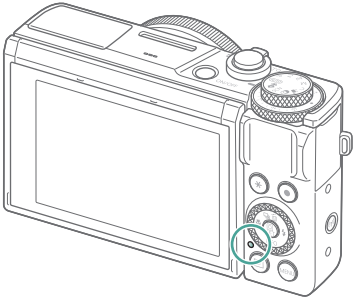


- 画面を持ち上げ、約 180˚まで開くことができます。
- 撮影モードで画面を開き、画面をレンズ側に向けると、画像が鏡像（左右反転）で表示されます。
- 使い終わったら画面を元の位置に戻します。

- カメラを使わないときは閉じた状態で保管してください。
- モニターは、故障の原因となるため無理に広げないでください。

ランプの表示

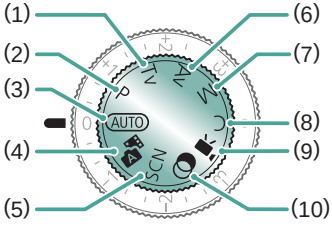
背面のランプは、カメラの状態に連動して点滅状態が変わります。



色	状態	操作状況
緑	点灯	● 静止画撮影時のカードへの記録／読み出し中
	ゆっくりと点滅	● 画面消灯時（ディスプレイオフ）
	点滅	● 動画撮影時のカードへの記録／読み出し中 ● Wi-Fi データ送受信中
オレンジ	点灯	● USB 充電中
	点滅	● USB 充電エラー

撮影モードを選ぶ

撮影モードの切り換えは、モードダイヤルで行います。



(1) Tv モード **Tv**
シャッタースピードを設定して撮影できます（🕮93）。リングで設定します。設定したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に絞り数値を設定します。

(2) P モード **P**
被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。いろいろな機能を自由に設定して撮影できます（🕮92）。

(3) オートモード **AUTO**
カメラまかせの全自動撮影ができます（🕮56）。

(4) プラスムービーオートモード
静止画を撮影すると、同時に撮影直前のシーンが動画として記録されます（🕮62）。

(5) スペシャルシーンモード **SCN**
撮影シーンに合った設定で撮影できます（🕮63）。

(6) Av モード **Av**
絞り数値を設定して撮影できます（🕮94）。リングで設定します。設定した絞り数値に応じて、カメラが自動的にシャッタースピードを設定します。

(7) M モード **M**
シャッタースピードと絞り数値を個別に設定して、目的の露出で撮影できます（🕮95）。シャッタースピードは ホイール、絞り数値はリングで設定します。

(8) C モード **C**
よく使う撮影モードと、自分好みに設定した各機能の設定を登録することができます（🕮285）。

(9) 動画モード
いろいろな動画が撮影できます（🕮88）。

(10) クリエイティブフィルターモード
いろいろな効果をつけて撮影できます（🕮82）。

クイック設定画面の使いかた



1 ㊗ボタンを押す



- (1) 設定項目
- (2) 設定内容



2 設定項目を選ぶ



3 設定内容を選ぶ



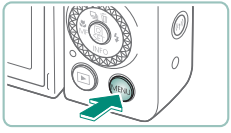
- [MENU] が表示される項目では、MENUボタンを押して設定します。



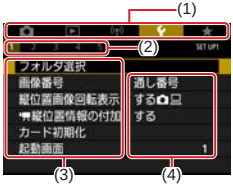
4 設定を終了する

- 設定内容は、◉ホイールを回しても選ぶことができます。
- クイック設定画面で設定できる項目は、MENU でも設定できます。

MENU（メニュー）の使いかた

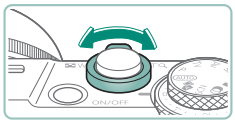


1 MENUボタンを押す



2 タブを選ぶ

- (1) メインタブ
- (2) サブタブ
- (3) 設定項目
- (4) 設定内容



- ズームレバーでメインタブを選びます。



- ◀/▶ボタンまたは◯リングでサブタブを選びます。





3 設定項目を選ぶ

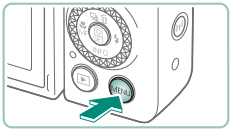
- 設定項目によっては、(SET)ボタンを押して画面を切り換えたあと、さらに▲／▼ボタンまたは◉ホイールで項目を選びます。



4 設定内容を選ぶ



5 設定を終了する



6 撮影画面に戻る

クイック設定画面で設定できる機能



撮影や再生の画面で㊗ボタンを押すとクイック設定画面が表示され、設定を変更できます。左右の設定項目を選ぶと、下部にその設定内容が表示されます。

（1）設定項目
（2）設定内容

Pモードで設定できる項目は、以下のとおりです。表示される設定項目や設定内容は、撮影モードによって異なります。

AF	AF 方式	撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）の方法を選べます。
ONE SHOT	AF 動作	シャッターボタンを半押ししている間、ピントを合わせ続けるときは［SERVO］を選びます。
	測光モード	明るさを測る方式を選べます。
L	記録画質	画像の記録画素数（大きさ）／画質（圧縮率）を選べます。
FHD 29.97P	動画記録サイズ	動画の記録サイズ／フレームレートを選べます。
ND AUTO	ND フィルター	光量を減らして適正な明るさにします。
ISO AUTO	ISO 感度	ISO 感度を選べます。
AWB	ホワイトバランス	明かりの種類にあわせて自然な色あいで撮影します。
A	ピクチャースタイル	撮影シーンや被写体にあわせて、好みの色あいを選べます。
	オートライティングオプティマイザ	明るさやコントラストを自動補正するレベルを選べます。
OFF	クリエイティブフィルター	いろいろな効果をつけて撮影できます。

MENU（メニュー）の設定項目一覧

MENU 画面で、カメラの各種機能を設定できます。MENU 画面は、MENUボタンを押すと表示されます。設定項目は 5 つの系統と複数のタブで分類されています。
MENU 画面で設定できる項目は、以下のとおりです。設定できる項目は、撮影モードによって異なります。

撮影設定

- 撮影モード
- 記録画質
- 静止画アスペクト比
- 撮影画像の確認時間
- ストロボ設定
- ドライブモード
- RAW バーストモード
- 日付写し込み
- 露出補正 /AEB 設定
- ISO 感度に関する設定
- ISO 感度に関する設定
- オートライティングオプティマイザ
- 高輝度側・階調優先
- ND フィルター
- 測光モード
- 測光タイマー
- 露出 Simulation
- ホワイトバランス
- MWB 画像選択
- WB 補正 /BKT 設定
- HDMI 出力時の情報表示
- ピクチャースタイル
- 高感度撮影時のノイズ低減
- クリエイティブアシスト設定記憶
- タッチシャッター
- シャッター方式
- AF 動作
- AF 方式
- コンティニュアス AF
- AF 補助光の投光
- フォーカス BKT 撮影
- AF+MF
- MF ピーキング設定
- セイフティ MF
- MF 拡大表示
- 手ブレ補正設定
- 自動水平補正
- デジタルズーム
- ダイジェスト形式
- 動画記録画質
- 動画セルフタイマー
- 録音
- 動画サーボ AF
- オートスローシャッター
- 星空タイムラプス動画設定
- 星の強調
- 星空ポートレート設定
- 色あい調整
- ビデオスナップ
- タイムラプス動画
- リモコン撮影
- ゼブラ設定

再生設定

- 画像プロテクト
- 静止画の回転
- 動画の回転情報の変更
- 画像消去
- 印刷指定
- フォトブック指定
- クリエイティブフィルター
- RAW 現像
- クリエイティブアシスト
- クイック設定からの RAW 現像
- 赤目補正
- アルバム編集
- トリミング
- リサイズ
- レーティング
- スライドショー
- 画像検索の条件設定
- での画像送り
- 再生情報表示設定
- 前回の画像から再生

無線通信設定

- Wi-Fi/Bluetooth 接続
- Wi-Fi 設定
- Bluetooth 設定
- ニックネーム
- GPS の設定
- 無線通信の設定初期化

機能設定

- フォルダ選択
- 画像番号
- 縦位置画像回転表示
- 縦位置情報の付加
- カード初期化
- 起動画面
- エコモード
- 節電
- 画面の明るさ
- 暗所表示
- 日付 / 時刻 / エリア
- 言語
- レンズ収納時間
- ビデオ方式
- タッチ操作
- 電子音
- 音量
- HDMI 出力解像度
- HDMI HDR 出力
- 撮影情報表示設定
- 鏡像表示
- 単位
- 機能ガイド
- カスタム機能 (C.Fn)
- カスタム撮影モード (C モード)
- カメラの初期化
- 著作権情報
- 使用説明書・ソフトウェア URL
- 認証マーク表示
- ファームウェア

★ マイメニュー

- マイメニュータブの追加
- マイメニュータブの全削除
- 全項目削除
- メニュー表示

撮影モードの画面



(1) 撮影モード／シーンアイコン
(2) 撮影可能枚数
(3) 連続撮影可能枚数
(4) 動画撮影可能時間
(5) バッテリー残量

撮影画面に表示される枠

撮影画面には、ピント合わせを行う枠（AF フレーム）が表示されます。

白の枠	主被写体と検出した顔やものに表示されます。
緑の枠	シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに表示されます。
青の枠	動いている被写体にピントを合わせ続けているときに表示されます。シャッターボタンを半押ししている間、表示されます。
黄色の枠	シャッターボタンを半押しして、ピントが合わないときに表示されます。

- 撮影シーンや被写体によっては、「枠が表示されない」、「撮りたい被写体に枠が表示されない」、「背景などに枠が表示される」ことがあるので、そのときは**P**モードで撮影することをおすすめします。

撮影時の画面表示の切り換えかた

撮影時の画面表示を切り換えることができます。



1 ▼ボタンを押す

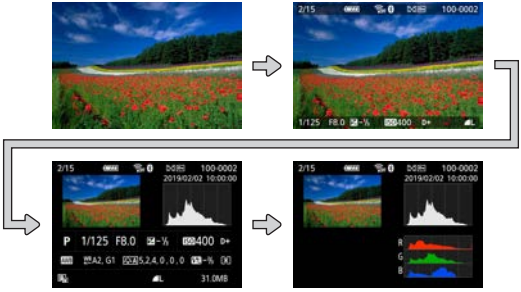


再生時の画面表示の切り換えかた

再生時の画面表示を切り換えることができます。



1 ▼ボタンを押す



- 詳細な情報を表示する画面にすると、情報表示画像上の白トビした部分が点滅表示されます。
- 詳細な情報を表示する画面にしたときに画面上部に表示されるグラフは、画像中の明るさの分布を示した輝度ヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示しています。このヒストグラムで、露出の傾向を確認できます。

ヒストグラムを切り換える

- RGB 表示に切り換えると、画像中の赤、緑、青の分布を示す RGB ヒストグラムが表示されます。横軸は各色の明るさ、縦軸は色の明るさごとの量を示しています。このヒストグラムで、色の傾向を確認できます。

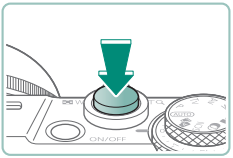
タッチ操作

被写体を選ぶ

画面上で人の顔などをタッチして被写体を選ぶことができます。



1 被写体を選ぶ



2 撮影する

- 被写体が小さすぎたり動きが速いときや、被写体と背景との明暗差が小さいときは、追尾できないことがあります。

クイック設定画面の使いかた



設定画面を表示するとき

- [Q] をタッチします。



設定するとき

- 設定項目→設定内容をタッチ



画面を切り替えるとき

- [MENU] が表示される項目では [MENU] をタッチして設定します。



元の画面に戻るとき

- [⮌] をタッチします。



バーの位置を調整するとき

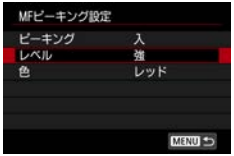
- バーをタッチまたはドラッグします。

MENU（メニュー）の使いかた



設定するとき

- メインタブ→サブタブ→設定項目→設定内容をタッチ



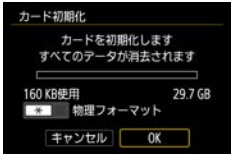
前の画面に戻るとき

- [MENU↩] をタッチします。



チェックをつける／外すとき

- チェックボックスをタッチします。



✳ボタンと同じ操作をするとき

- [✳] をタッチします。



MENUボタンと同じ操作をするとき

- [MENU] をタッチします。



(SET)ボタンと同じ操作をするとき

- [SET] をタッチします。

見る



1 枚ずつ見るとき

- 次の画像：左にドラッグ
- 前の画像：右にドラッグ



動画を再生するとき

- 再生：[▶]をタッチ



再生中の動画を操作するとき

- 停止：画面をタッチ
- 再開：[▶]をタッチ
- 音量を調整：[🔊]をタッチ



1 枚表示から一覧表示にするとき



表示する画像の数を減らすとき



画像を拡大するとき

- 素早く 2 回タッチ





拡大した画像を縮小するとき

- 元の大きさに戻すとき：[⮌] をタッチ、または素早く 2 回画面をタッチ

- 動画の再生中に画面をタッチして動画再生パネルを表示することもできます。
- 一覧表示中に画面を上下方向にドラッグすると、指の動きにあわせて表示が切り換わります。
- 拡大表示中に画面をドラッグすると、表示位置が移動します。

文字の入力方法





文字を入力するとき
- 文字をタッチ

入力位置を移動するとき
- [◀] ／ [▶] または リング

文字の種類を変えるとき
- [⇧]：大文字に切り換え
- [🔣]：数字や記号などに切り換え

文字を消すとき
- [⌫]

キーボードの種類を変えるとき
- [⌨]

改行するとき
- [↵]

元の画面に戻るとき
- [MENU]

撮影

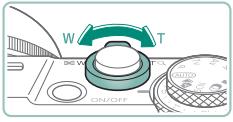
かんたん操作で手軽に撮ったり、いろいろな機能を使ってもう少しこだわった画像を撮ることができます。

カメラまかせで撮る（オートモード／プラスムービーオートモード）

オートモードでは、カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。

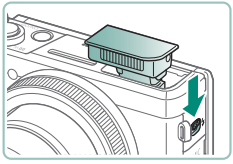


1 AUTOモードにする

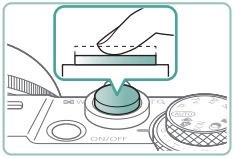


2 撮りたいものの大きさを決める

- 画面を見ながらズームレバーを操作します。



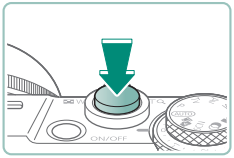
ストロボを使用するとき



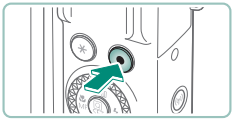
3 ピントを合わせる（半押し）



- ピントが合うと、電子音が「ピピッ」と鳴ります。
- ピントが合った位置に AF フレームが表示されます。



4 撮影する（全押し）



動画を撮るとき

- 撮影中は［● REC］が表示されます。
- もう一度、動画撮影ボタンを押すと、撮影が終わります。

静止画

- ［］が点滅表示したときは手ブレしやすいため、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。
- ストロボが光ったのに暗い画像になるときは、被写体までの距離が遠すぎます。
- 暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためランプ（前面）が点灯することがあります。

動画

- 画面の上下に表示される黒い帯の部分は撮影されません。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。
- カード容量がいっぱいになるか、1 回の撮影時間が所定時間に達すると、自動的に撮影が終わります。
- 1 回の撮影時間は、最長 29 分 59 秒です。
- 長時間の動画撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがありますが故障ではありません。
- 動画撮影するときは、マイクをふさがないよう注意してください。マイクをふさぐと音声が録音されなかったり、こもった音声で録音されることがあります。
- 内蔵マイクの音声はステレオで録音されます。
- 動画撮影中に動画撮影ボタンや画面タッチ以外の操作を行うと、操作音が録音されるので、注意してください。撮影中の設定変更などはタッチ操作で行うことをおすすめします。
- 内蔵マイク／外部マイク使用時に Wi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- 大きな手ブレを補正するため、撮影を始めると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。撮影前と同じ大きさで撮影したいときは、手ブレ補正の設定を変えてください。
- 動画撮影中、ピント位置が自動的に調整されるため、レンズの動作音も録音されることがあります。
- 1 回の撮影で容量が 4 GB を超える動画はファイルが分割されることがあります。分割された動画を自動で連続再生することはできません。動画ごとに再生してください。

シーンのアイコン

- AUTO／モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるよう自動設定されます。
- 撮影シーンによっては、実際のシーンと異なるシーンのアイコンが表示されたり、思いどおりの効果、色あい、明るさで撮影できないことがあるので、そのときは**P**モードで撮影することをおすすめします。

手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーン IS）され、以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正（通常）
	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正（流し撮り）*
	マクロ撮影するときの角度ブレとシフトブレを補正（ハイブリッド IS）。動画では［ ］が表示され、さらに［ ］も加えた手ブレを補正
	動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミック）
	動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワード）
	三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正を停止。ただし、動画撮影中は［ ］が表示され、風などによる振動の影響を低減するブレ補正を実施（三脚 IS）

* 動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

効果を付けて撮る（クリエイティブアシスト）

好みの効果を選んで撮影することができます。

AUTO



1 ㊗ボタンを押す



2 効果を選ぶ

- ◀／▶ボタン→㊗ボタン

3 効果の度合い・内容を選ぶ

- ◀／▶ボタン→㊗ボタン
- リセット：✳ボタン

プリセット	用意された効果の中から選ぶことができます。
背景ぼかし	背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。［オート］に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。
明るさ	画像の明るさを設定することができます。
コントラスト	コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。
鮮やかさ	色の鮮やかさを設定することができます。
色あい 1	ブルーとアンバーの色あいを設定することができます。

色あい２	マゼンタとグリーンの色あいを設定することができます。
モノクロ	モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。［切］を設定したときはカラーで撮影されます。

- ストロボ撮影時、［背景ぼかし］は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源を切ると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、［クリエイティブアシスト設定記憶］を［する］に設定しておくと、設定が保持されます。
- ［登録］にタッチすると、現在の効果を［プリセット］内に最大３件登録できます。

プラスムービーオートで撮る

静止画を撮影するだけで、静止画と同時に撮影直前の約 2 ～ 4 秒のシーンも動画として記録されます。シャッター音と一緒に静止画が動画の最後に記録され、1 つのチャプターになります。1 日をまとめた短編動画（ダイジェスト動画）ができます。



1 モードにする

2 ピントを合わせて撮影する

- 静止画を撮影する約 4 秒前からカメラを被写体に向けておくと、ダイジェスト動画もきれいに撮影できます。
- 静止画と一緒にダイジェスト動画が撮影されるため、AUTOモードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- 電源を入れたり モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、ダイジェスト動画が記録されないことがあります。
- ダイジェスト動画には、カメラやレンズを操作したときの音と振動が記録されます。
- ダイジェスト動画の画質は、[FHD 29.97P]（NTSC 時）または [FHD 25.00P]（PAL 時）です。ビデオ方式の設定によって異なります。
- シャッターボタンを半押ししたときやセルフタイマーなどの電子音は鳴りません。
- 次のときは、同じ日に モードで作成されたダイジェスト動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - ダイジェスト動画の記録時間が約 29 分 59 秒になったとき（ダイジェスト動画の容量が約 4GB を超えたときも、別ファイルとして保存されることがあります）
  - ダイジェスト動画を保護したとき
  - サマータイムの設定、ビデオ方式、エリア設定を変えたとき
- 記録されるシャッター音は、変えたり消すことはできません。

いろいろなシーンで撮る（スペシャルシーンモード）

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。



1 SCNモードにする



2 ㊗ボタン→［］→内容を選ぶ

3 撮影する



自分撮り

自分撮りをするときに、画像処理によって肌がなめらかに見えるよう美肌の効果をかけるほか、明るさや背景を自分好みに設定し、自分が浮き立つような画像にすることができます。



ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせ、肌や髪の毛がやわらかな感じで撮影できます。



美肌

画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正することがあります。
- [ ] モードで設定した内容は、[ ] モードの設定には反映されません。



料理

料理を明るく、鮮やかな色あいに撮影できます。

- 人は適切な色あいにならないことがあります。
- ストロボ撮影時は、［色あい］の設定が標準設定に切り換わります。



手持ち夜景

夜景や夜景を背景にした人をきれいに撮影できます。

- 連続撮影した画像を 1 枚に合成することで、ノイズが軽減されます。
- 連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- 撮影後に合成処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 撮影シーンによっては ISO 感度が高くなるため、画像が粗くなることがあります。
- ブレが大きすぎるときや撮影シーンによっては、思いどおりの効果が得られない画像が保存されることがあります。
- ストロボ撮影時はシャッター速度が遅くなることがあるため、カメラが動かないように固定することをおすすめします。



HDR 逆光補正

明るさの異なる 3 枚の画像を連続撮影し、自動で合成して 1 枚の画像にします。明るいところと暗いところが混在する風景などで、白トビや黒ツブレをおさえることができます。

- 連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- ブレが大きすぎるときや撮影シーンによっては、思いどおりの効果が得られない画像が保存されることがあります。
- 手ブレが大きくてうまく撮影できないときは、三脚などでカメラが動かないように固定することをおすすめします。また、三脚などでカメラを固定するときは、手ブレ補正の機能を使わず撮影することをおすすめします。
- 被写体が動くとブレた画像になります。
- 撮影後に合成処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。

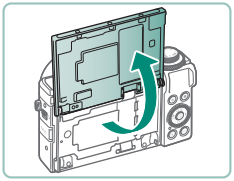


打ち上げ花火

打ち上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします。
- 最適なピント位置に設定されますが、シャッターボタンを半押ししても枠は表示されません。

自分撮りに最適な設定で撮る（自分撮りモード）



1 ［］を選ぶ

2 モニターを開く



3 設定する

- 設定する項目に応じて画面に表示されたアイコンをタッチします。
- 内容を選びます。
- ［⮌］をタッチすると、元の画面に戻ります。

4 撮影する

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正することがあります。
- ［］モードで設定した［美肌効果］は、［］モードには反映されません。
- ストロボモードを［］に設定してストロボ撮影を行うときは、［背景ぼかし］を［オート］に設定します（［オート］以外に設定されているときは発光しません）。

パノラマショットを撮る（パノラマモード）

シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影すると、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像が作成されます。



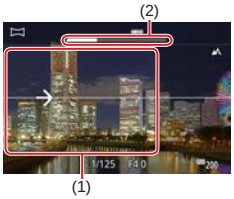
1 を選ぶ

2 撮影する方向を選ぶ

- ▶ボタンで撮影する方向を選びます。
- カメラを動かす方向を示す矢印が表示されます。

3 シャッターボタンを半押しする

- ピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押ししたまま、矢印の方向にカメラを一定の速さでまっすぐに動かします。
- 画面で透明に表示されている部分（1）が撮影されていきます。
- 撮影の進み具合を示すバー（2）が表示されます。
- シャッターボタンを放すか、バーがすべて白色になると撮影が終了します。

- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- カメラの動かしかたが速すぎたり遅すぎたりすると、撮影が途中で中断されます。ただし、作成された画像は保存されます。
- [▱] モードで撮影した画像は画像サイズが大きいため、キヤノン製プリンターにカードを差し込んでプリントするときは、一度パソコンなどで画像をリサイズしてからプリントしてください。また、ソフトウェアや Web サービスなどで画像が正しく扱えないときは、画像のリサイズをお試しください。
- 次の被写体やシーンでは、適切に合成されないことがあります。
  - 動いている被写体
  - 近くの被写体
  - 構図の中で明暗差が大きいとき
  - 空や海など単調な色や模様が続くシーン

背景が流れるような写真を撮る（流し撮りモード）



被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮影できます。



1 ［〰］を選ぶ

2 撮影する

- 撮影前から被写体を追いかけるように、シャッターボタンを半押ししながらカメラを動かします。
- 動いている被写体を画面に表示している枠にとらえながら、シャッターボタンを全押しします。
- シャッターボタンを全押ししたあとも被写体を追い続けるようにカメラを動かします。

- 脇をしめてカメラを両手でしっかりと構え、体全体を回すように被写体を追って撮影することをおすすめします。
- 電車や自動車など水平方向に動く被写体を撮影するとより効果が発揮されます。

星空と人を一緒に撮る（星空ポートレートモード）

人と星空をきれいに撮影することができます。人をストロボ撮影したあと、続けてストロボを発光させずに 2 枚の画像が撮影されます。この 3 枚の画像を自動で合成して 1 枚の画像にします。



1 [ ] を選ぶ

- ズーム位置がもっとも広角になり、固定されます。

色あいを調整するとき

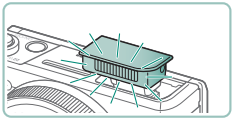
- ⓈETボタン→ [WB] →◀／▶ボタン
- 詳細設定：ⓈETボタン→ [WB] →MENUボタン→▲／▼／◀／▶ボタン

2 ストロボを上げる

- ϟレバーを動かして、ストロボを上げます。

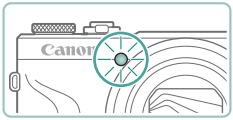
3 カメラを固定する

- 三脚などでカメラが動かないように固定します。



4 撮影する

- シャッターボタンを押すと、ストロボが発光して 1 枚目が撮影されます。
- 続けて 2 枚目が撮影され、3 枚目の撮影がはじまります（2 枚目、3 枚目はストロボ非発光）。





5 ランプ（前面）が点滅するまで撮影される人は動かないようにする

- 3 枚目の撮影（最長約 2 秒）が終わるとランプが点滅しますので、それまでは撮影される人が動かないようにしてください。
- 1 枚の画像が記録されます。

- 街灯などの光が人に当たっているときや、ストロボを上げずに撮影すると、人はきれいに撮影されません。
- 撮影後に処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 撮影される人が動くとブレた画像になるため、撮影中は動かないよう注意してください。
- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。
- 色あいを調整しても人の色あいは変わりません。
- [暗所表示] を [入] にして撮影することをおすすめします。
- 人が思いどおりの明るさにならないときは、調光補正することで適正な明るさになることがあります。
- 星空が思いどおりの明るさにならないときは、露出補正することで適正な明るさになることがあります。ただし、撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られなかったり、手順 4 ～ 5 の撮影時間がさらに長く（最長約 15 秒）なるため撮影される人が動かないよう注意してください。
- 星をより多く、さらに明るく撮影したいときは、[星空ポートレート設定] を選び、[星の数と明るさ] を [多く / 明るく] に設定します。ただし、撮影シーンによっては思いどおりの効果が得られなかったり、手順 4 ～ 5 の撮影時間がさらに長く（最長約 30 秒）なるため撮影される人が動かないよう注意してください。
- [星の強調] が [シャープ] のときは、星の光を明るく撮影できます。星がたくさんあるシーンで明るい星を強調させたいときは [ソフト] にします。明るい星は大きく、暗い星は薄く処理することで、より印象的な画像にすることができます。星の光を強調する処理をしないときは [切] にします。なお、[シャープ] [ソフト] に設定しても、明るいシーンでは強調処理は行われません。

星空と夜景を撮る（星空夜景モード）

星空を夜景と一緒にきれいに撮影できます。



1 [🌌] を選ぶ

- ズーム位置がもっとも広角になり、固定されます。

色あいを調整するとき

- ㊗ボタン→ [WB] →◀／▶ボタン
- 詳細設定：㊗ボタン→ [WB] →MENUボタン→▲／▼／◀／▶ボタン

2 カメラを固定する

- 三脚などでカメラが動かないように固定します。

ピントを調整するとき

- ◀ボタン→ [MF] →㊗ボタン
- MENUボタンを押したあと、画面に表示された枠内に撮影したい星が入るようにカメラの向きを調整します。
- ㊗ボタンを押すと調整が始まります。
- 調整にはしばらく時間がかかるため、調整完了のメッセージが表示されるまでカメラを動かさないでください。



3 撮影する

- 撮影後に処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。
- [暗所表示] を [入] にして撮影することをおすすめします。
- [星の強調] が [シャープ] のときは、星の光を明るく撮影できます。星がたくさんあるシーンで明るい星を強調させたいときは [ソフト] にします。明るい星は大きく、暗い星は薄く処理することで、より印象的な画像にすることができます。星の光を強調する処理をしないときは [切] にします。なお、[シャープ] [ソフト] に設定しても、明るいシーンでは強調処理は行われません。
- 星のピント位置をより細かく合わせたいときは、マニュアルフォーカスでピント位置を調整してから撮影することをおすすめします。

星が動いた軌跡を撮る（星空軌跡モード）

星が動いた軌跡を 1 枚の画像として記録できます。撮影中は、カメラが決めたシャッタースピードや撮影枚数で連続撮影が行われます。なお、1 回の撮影に最長約 2 時間かかるため、事前にバッテリーの残量を確認してください。



1 [🌌] を選ぶ

- ズーム位置がもっとも広角になり、固定されます。

色あいを調整するとき

- ㊗ボタン→ [WB] →◀／▶ボタン
- 詳細設定：㊗ボタン→ [WB] →MENU ボタン→▲／▼／◀／▶ボタン

2 撮影時間を設定する

- リングを回して撮影時間を選びます。

3 カメラを固定する

- 三脚などでカメラが動かないように固定します。

ピントを調整するとき

- ◀ボタン→ [MF] →㊗ボタン
- MENUボタンを押したあと、画面に表示された枠内に撮影したい星が入るようにカメラの向きを調整します。
- ㊗ボタンを押すと調整が始まります。
- 調整にはしばらく時間がかかるため、調整完了のメッセージが表示されるまでカメラを動かさないでください。



4 撮影する

- 撮影中は、カメラに触らないようにしてください。
- 撮影を中止するときは、もう一度シャッターボタンを全押しします。ただし、撮影が中止されるまでに最長約 30 秒かかることがあります。

- 撮影の途中でバッテリーの残量が足りなくなると、撮影が中止され、途中までの撮影結果が保存されます。
- 撮影後に処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。
- [暗所表示] を [入] にして撮影することをおすすめします。
- 星のピント位置をより細かく合わせたいときは、マニュアルフォーカスでピント位置を調整してから撮影することをおすすめします。

星の動きを撮る（星空タイムラプス動画モード）

一定間隔で撮影した画像をつなげることで 1 つの動画を作成し、星の動きを早送りで見ることができます。また、撮影間隔や撮影時間などを変えることができます。
なお、1 回の撮影に時間がかかり、多くの画像を撮影するため、事前にバッテリーの残量とカードの空き容量を確認してください。



1 [ ] を選ぶ

- ズーム位置がもっとも広角になり、固定されます。

色あいを調整するとき

- (SET)ボタン→ [WB] →◀/▶ボタン
- 詳細設定：(SET)ボタン→ [WB] →MENUボタン→▲/▼/◀/▶ボタン



2 動画の設定をする

- ▶ボタン→項目を選ぶ→内容を選ぶ

3 カメラを固定する

- 三脚などでカメラが動かないように固定します。

ピントを調整するとき

- ◀ボタン→ [MF] →(SET)ボタン
- MENUボタンを押したあと、画面に表示された枠内に撮影したい星が入るようにカメラの向きを調整します。
- (SET)ボタンを押すと調整が始まります。

- 調整にはしばらく時間がかかるため、調整完了のメッセージが表示されるまでカメラを動かさないでください。

4 明るさを確認する

- シャッターボタンを全押しして、1 枚の画像を撮影します。
- 再生表示にして撮影した画像の明るさを確認します。
- 思いどおりの明るさにならないときは、撮影画面で露出補正ダイヤルを回して露出を調整したあと、もう一度撮影します。

5 撮影をはじめる

- 動画撮影ボタン→シャッターボタンを全押しする
- 撮影中は、カメラに触らないようにしてください。
- 撮影中に映像は表示されません。
- 撮影を中止するときは、もう一度シャッターボタン、または動画撮影ボタンを押します。ただし、撮影が中止されるまでに最長約 30 秒かかることがあります。

項目	設定できる項目	内容
撮影画像の保存	しない、する	連続撮影した動画作成前の画像を保存するか選ぶことができます。［する］のときは、［効果］は使用できません。
効果		軌跡など、動画の効果を選ぶことができます。
撮影間隔	15 秒、30 秒、1 分	撮影する間隔を選ぶことができます。
動画記録サイズ	FHD 14.99P、FHD 29.97P、4K 14.99P、4K 29.97P（NTSC 時） FHD 12.50P、FHD 25.00P、4K 12.50P、4K 25.00P（PAL 時）	動画記録サイズを選ぶことができます。
撮影時間	60 分、90 分、120 分、制限なし	撮影時間を選ぶことができます。［制限なし］のときは、バッテリー残量がなくなるまで撮影することができます。
自動露出	1 枚目固定、 毎フレーム更新	1 枚目の露出で固定するか、撮影ごとに露出を更新するかを選ぶことができます。
リモコン撮影	しない、する	ワイヤレスリモートコントローラーを使って撮影するかどうかを選ぶことができます。
撮影時の電子音	入、切	撮影時に電子音を鳴らすかどうかを選ぶことができます。

- ［星空タイムラプス動画設定］で設定することができます。
- USB 電源アダプター PD-E1（別売）を使用すると、バッテリー残量を気にせず撮影できます。
- ［撮影時間］を［制限なし］に設定しても、最長 8 時間で撮影が終了します。

撮影間隔およびフレームレートと再生時間の目安（動画を 60 分撮影したとき）

撮影間隔	動画記録サイズ		再生時間（約）	
	NTSC 時	PAL 時	NTSC 時	PAL 時
15 秒	FHD 14.99P、4K 14.99P	FHD 12.50P、4K 12.50P	16 秒	19.2 秒
15 秒	FHD 29.97P、4K 29.97P	FHD 25.00P、4K 25.00P	8 秒	9.6 秒
30 秒	FHD 14.99P、4K 14.99P	FHD 12.50P、4K 12.50P	8 秒	9.6 秒
30 秒	FHD 29.97P、4K 29.97P	FHD 25.00P、4K 25.00P	4 秒	4.8 秒
1 分	FHD 14.99P、4K 14.99P	FHD 12.50P、4K 12.50P	4 秒	4.8 秒
1 分	FHD 29.97P、4K 29.97P	FHD 25.00P、4K 25.00P	2 秒	2.4 秒

- 撮影の途中でバッテリーの残量やカードの空き容量が足りなくなると、撮影が中止され、途中までの撮影結果が保存されます。
- 撮影後に処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 効果を［］［］［］［］にしているときは、撮影間隔の［1 分］は選べません。
- B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。
- 音声は録音されません。
- ［暗所表示］を［入］にして撮影することをおすすめします。
- 星のピント位置をより細かく合わせたいときは、マニュアルフォーカスでピント位置を調整してから撮影することをおすすめします。

いろいろな効果をつけて撮る（クリエイティブフィルターモード）

いろいろな効果をつけて撮影することができます。シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがありますので、事前に試し撮りすることをおすすめします。



1 モードにする



2 ボタン→［］→内容を選ぶ



3 効果を選ぶ
- リングでレベルを選びます。

4 撮影する



ラフモノクロ

白黒でざらついた感じの画像を撮影できます。



背景ぼかし

背景をぼかして被写体を浮き立たせた画像を撮影することができます。

- ブレが大きすぎるときや撮影シーンによっては、思いどおりの効果が得られない画像が保存されることがあります。
- 「被写体に近づく」「被写体と背景の距離を離す」とぼかし効果が得られやすくなります。
- 撮影後、次の撮影までにしばらく時間がかかることがあります。



ソフトフォーカス

ソフトフィルターを使ったような効果をつけて、優しい雰囲気の画像を撮影できます。



魚眼風

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影できます。



水彩風

水彩画のようなやわらかい感じの色の画像を撮影できます。



トイカメラ風

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。



ジオラマ風

指定した範囲以外をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影できます。



HDR HDR 絵画調標準

コントラストをおさえたフラットな階調で、絵画のような効果をつけて撮影できます。



HDR HDR グラフィック調

鮮やかなグラフィックアートのような効果をつけて撮影できます。



HDR HDR 油彩調

輪郭を強調し、鮮やかな油絵のような効果をつけて撮影できます。



HDR HDR ビンテージ調

輪郭を強調し、暗い感じにすることで、色あせた古い写真のような効果をつけて撮影できます。

HDR 絵画調標準／HDR グラフィック調／HDR 油彩調／HDR ビンテージ調

- 明暗差の大きい風景などでの白トビや黒ツブレをおさえることができます。
- シャッターボタンを全押しすると、3 枚連続して撮影されたあと、画像が合成されます。そのため、撮影中はカメラをしっかりと構え続けてください。
- ブレが大きすぎるときや撮影シーンによっては、思いどおりの効果が得られない画像が保存されることがあります。
- 手ブレが大きくてうまく撮影できないときは、三脚などでカメラが動かないように固定することをおすすめします。また、三脚などでカメラを固定するときは、手ブレ補正の機能を使わず撮影することをおすすめします。
- 撮影後に合成処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。

油彩風

- モードのときは［］は選択できません（Pモードなどのときに選択できます）。

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

1 ［🏙］を選ぶ



2 ぼかさない範囲（ジオラマ枠）を設定する

- ▼ボタン→▲／▼ボタンで枠を移動する→㊗ボタン



3 ピントを合わせる位置（AF フレーム）を設定する

- ▲／▼／◀／▶ボタンで AF フレームを移動する→㊗ボタン

4 撮影する

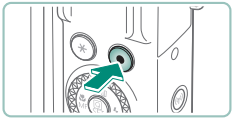
- 手順 2 で▼ボタンを押したときに枠が横に表示されているときは、◀／▶ボタンを押すと、枠を縦にすることができます。

いろいろな動画を撮る（動画モード）

モードでは、ジオラマ風動画（📖170）、ビデオスナップ（📖172）、タイムラプス動画（📖174）など、いろいろな効果や機能を使用して、動画を撮影できます。



1 モードにする



2 撮影をはじめる

- 撮影中は［● REC］が表示されます。
- もう一度、動画撮影ボタンを押すと、撮影が終わります。

- 画面の［●］／［■］にタッチして撮影を開始／終了することもできます。
- モードにすると、画面上下に黒い帯が表示されます。なお、黒い帯の部分は撮影されません。
- モードにすると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなります。
- 露出補正ダイヤルを回すと、露出を調整することができます。
- 撮影前や撮影中に画面上の［SERVO AF］をタッチするか▶ボタンを押すと、ピント位置を自動調整するか固定するかを切り換えられます（自動調整のときは［SERVO AF］の左上の◯が緑色になります）。ただし、［動画サーボ AF］が［しない］のときは表示されません。

Video Blog を撮る（Video Blog 撮影モード）

Video Blog に適したモードで動画を撮影することができます。



1 ㊗ボタン→［］→［］を選ぶ

2 撮影をはじめる

- シーンの変化に速やかにピントが追従します。

- 露出補正や AE ロックはできません。

シャッタースピードと絞り数値を決めて動画を撮る（動画マニュアル露出）

シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度を個別に設定して撮影できます。



1 ㊗ボタン→［🎥］→［🎥］を選ぶ



2 ISO 感度を設定する→㊗ボタン



3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードの設定：◉ホイール
- 絞り数値の設定：◐リング

4 撮影をはじめる

- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影しているとき、設定したシャッタースピードによっては、画面のちらつきが記録されることがあります。
- ISO感度を固定しているときは、シャッターボタンを半押しすると、設定した値に連動して露出レベル表示が移動し、標準露出からの差が確認できます。標準露出からの差が3段を越えると、露出レベル表示が［◀］または［▶］になります。
- ISO感度が［AUTO］のときは、シャッターボタンを半押しするとISO感度を確認できます。設定したシャッタースピードと絞り数値で標準露出を得られないときは、露出レベル表示で標準露出からの差が確認できます。標準露出からの差が3段を越えると、露出レベル表示が［◀］または［▶］になります。

HDR動画を撮る

明暗差の大きいシーンで、白トビが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。



1 ㊞ボタン→［🎥］→［HDR］を選ぶ

2 撮影をはじめる

プログラム AE で撮る（P モード）

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。
Pモードでは AF 動作や測光モードなど、いろいろな機能を自由に設定して撮影できます。



1 **P**モードにする

2 各機能を設定する

3 撮影する

- **P**は Program AE（プログラムエーイー）の略、AE は Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
- シャッターボタンを半押ししたときに標準露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値が白色で点滅して表示されます。ISO 感度を変えたり、被写体が暗いときにストロボを発光させると、標準露出が得られることがあります。
- **P**モードでも、動画撮影ボタンを押すと動画が撮影できます。ただし、クイック設定画面や MENU 画面に表示される項目の一部が、動画撮影の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- シャッターボタンを半押ししたあと、リングを回すと、シャッタースピードと絞り数値の組みあわせを変えることができます（プログラムシフト）。

シャッタースピードを決めて撮る（Tvモード）

シャッタースピードを設定して撮影できます。設定したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に絞り数値を設定します。



遅い



速い



1 Tvモードにする



2 シャッタースピードを設定する

- リング

3 撮影する

- **Tv**は Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。
- シャッタースピードを遅くしたときに三脚などでカメラを固定するときは、手ブレ補正の機能を使わず撮影することをおすすめします。
- シャッターボタンを半押ししたときに絞り数値が点滅して表示されるときは、標準露出から外れています。絞り数値が点滅しなくなるまで、シャッタースピードを変えます。

絞り数値を決めて撮る（Av モード）

絞り数値を設定して撮影できます。設定した絞り数値に応じて、カメラが自動的にシャッタースピードを設定します。



絞り数値：小



絞り数値：大



1 Avモードにする



2 絞り数値を設定する

- リング

3 撮影する

- **Av**は Aperture value（アパーチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。
- シャッターボタンを半押ししたときにシャッタースピードが点滅して表示されるときは、標準露出から外れています。シャッタースピードが点滅しなくなるまで、絞り数値を変えます。

シャッタースピードと絞り数値を決めて撮る（M モード）

シャッタースピードと絞り数値を個別に設定して、目的の露出で撮影できます。



1 Mモードにする



2 ボタン→［］→ISO 感度を設定する



3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードの設定：ホイール
- 絞り数値の設定：リング

4 撮影する

- **M**は Manual（マニュアル）の略です。
- ISO 感度を固定しているときは、シャッターボタンを半押しすると、設定した値に連動して露出レベル表示が移動し、標準露出からの差が確認できます。標準露出からの差が 3 段を越えると、露出レベル表示が［◀］または［▶］になります。
- シャッタースピードと絞り数値を設定したあとにズーム操作をしたり構図を変えると、露出レベル表示が移動することがあります。
- ISO 感度を固定しているときは、シャッタースピードと絞り数値の設定により、画面の明るさが変わります。ただし、ストロボを上げてストロボモードを［ϟ］にすると画面の明るさは変わりません。
- ISO 感度を［AUTO］にしているときは、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるように ISO 感度が変わるため、思いどおりの露出で撮影できないことがあります。
- オートライティングオプティマイザによって、画像の明るさが変わることがあります。オートライティングオプティマイザの設定画面で［マニュアル露出時は OFF］に［✓］をつけると、**M**モードではオートライティングオプティマイザが［しない］固定になります。
- 標準露出は設定している測光の方式で算出されます。
- ISO 感度を［AUTO］にしているときは、露出補正ダイヤルを回して、露出を補正できます。

長時間露光（バルブ）撮影



バルブ撮影は、シャッターボタンを全押ししている間だけ露光を行う機能です。

M



1 ◉ホイール→［BULB］

- ◉ホイールを左に回していきます。[30"]の次が［BULB］です。

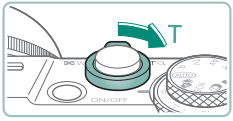
2 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光します。露光中は、露光経過時間が表示されます。
- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、手ブレ補正の機能を使わず撮影することをおすすめします。
- ［タッチシャッター］を［する］に設定しているときは、画面をタッチすると撮影が始まり、もう一度タッチすると撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

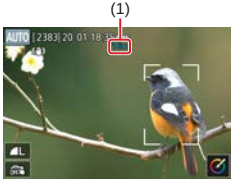
光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約 16 倍まで拡大できます。

AUTO



1 ズームレバーをT側に押す

- レバーを押したままにします。
- 画像の粗さが目立たない最大の倍率になるとズームが止まり、ズーム倍率が表示されます。



2 もう一度T側に押す

- さらにズームして、被写体が拡大されます。
- (1) は現在の倍率です。

- ズームレバーを操作するとズーム位置を示すズームバーが表示されます。バーの色はズーム領域によって変わります。
  - 白の領域：画像が粗くならない光学ズーム領域
  - 黄色の領域：画像の粗さが目立たないデジタルズーム領域（プログレッシブファインズーム）
  - 青色の領域：画像が粗くなるデジタルズーム領域
- 設定した記録画素数によっては青色の領域がないため、ズームが止まらずに最大倍率までズームできます。
- デジタルズームを使わないようにするには、[デジタルズーム] → [切] を選びます。

明るさ（露出）を固定する（AE ロック）

静止画や動画を撮影する際、露出を固定したり、ピントと露出を個別に設定できます。



AE ロックなし



AE ロック

P

1 **露出を固定したい被写体にカメラを向ける**



2 **✳ボタンを押す**



- [✳] が表示され、露出が固定されます。
- もう一度押すと解除されます。

3 **構図を決めて撮影する**

- AE は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

[🌷] に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。

P



1 ◀ボタンを押して［🌷］を選ぶ

2 撮影する

- ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、▲ボタン→［⏲2］にして撮影することをおすすめします。

マニュアルフォーカスで撮る

オートフォーカスでピントが合わないときは、マニュアルフォーカスを使います。画面を拡大表示にすると、ピントを合わせやすくなります。

P



1 マニュアルフォーカスにする

- ◀ボタンを押して［MF］を選びます。
- ［MF］と MF インジケーターが表示されます。



(1)

2 ピントを合わせる

- MF インジケーター (1) の距離表示とピント位置を示すバーを目安にして、▲／▼ボタンを長押しし、おおよそのピントを合わせます。
- 拡大表示を見ながら▲／▼ボタンを短押しし、さらにピント位置を調整します。▶ボタンを押すと、拡大倍率を変えられます。
- 画面をドラッグすると、拡大表示範囲を移動できます。MENUボタンで中央に戻ります。

3 撮影する

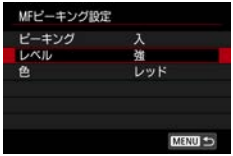
- 正確なピント合わせを行うには、三脚などでカメラを固定することをおすすめします。
- マニュアルフォーカスを開始したときに、画面が拡大された状態から表示することができます（MF 拡大表示）。
- シャッターボタンを半押しすると、もっともピントが合う位置に微調整されます（セイフティ MF）。
- RAW バースト撮影時は、手順 2 で拡大表示できません。

ピント合わせをしやすい表示にする（MF ピーキング）

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることで、マニュアルフォーカス時のピント合わせをしやすくすることができます。また、表示レベルや色を変えることもできます。



1 [MF ピーキング設定] → [ピーキング] → [入]



2 設定する

- MF ピーキングで表示した色は画像に記録されません。

AF ロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を放しても、ピント位置は固定されたままになります。

P



1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、◀ボタンを押します。
- ピントが固定され、［MF］と MF インジケーターが表示されます。

2 構図を決めて撮影する

- もう一度◀ボタンを押したあと、［AF］または［］を選ぶと解除されます。

- サーボ AF 設定時（📖151）は AF ロックできません。

焦点距離を指定して撮る（ステップズーム）

24 ～ 100 mm（35mm フィルム換算）の範囲で、代表的な焦点距離に設定して撮影することができます。

AUTO



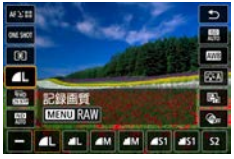
- ◐リングを反時計回りに回すと望遠側にズームします。さらに◐リングを時計回りに回すと広角側にズームします。

- 動画の撮影中に◐リングを回しても、ステップズームは動作しません。
- デジタルズームの領域では、◐リングを反時計回りに回してもデジタルズームの倍率は変えられません。ただし、◐リングを時計回りに回すと焦点距離は 100 mm になります。

記録画質を変える

画像の記録画素数（大きさ）と画質（圧縮率）を、7 種類の組み合わせから選べます。また、RAW 画像を記録するかどうかも設定できます。

P



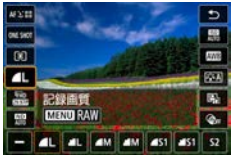
1 ㊗ボタン→［◢L］→内容を選ぶ

- ［◢］［◣］は、圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、［◢］の方が高画質です。［◣］では画質が少し落ちますが、記録枚数を多くできます。なお、［S2］は［◢］の画質です。

RAW 画像を記録する

このカメラでは、JPEG 画像と RAW 画像を記録できます。
RAW 画像とは、JPEG 画像を作り出す前の「生データ」のことです。

P



1 ㊗ボタン→［◢L］→MENUボタンを押す



2 RAW の記録方法を選ぶ

- [RAW] は画質を優先した RAW 画像です。[CRAW] はコンパクトな RAW 画像です。
- RAW 画像はそのままの状態ではパソコンで見たり印刷したりできません。このカメラで現像するか、キヤノン製のソフトウェア Digital Photo Professional を使って一般的な JPEG 画像や TIFF 画像に変換（現像）する必要があります。
- RAW 画像を記録するときは、デジタルズームは［切］固定になります。
- JPEG 画像の拡張子は「.JPG」、RAW 画像の拡張子は「.CR3」です。同時に記録した JPEG 画像と RAW 画像は、同じ画像番号のファイルになります。
- ［記録画質］で設定することもできます。JPEG 画像と RAW 画像を同時に記録するときは、[RAW] で [RAW] または [CRAW] を選びます。
- [記録画質] 画面で、[RAW] で [−] を選ぶと JPEG 画像だけを、[JPEG] で［−］を選ぶと RAW 画像だけを記録する設定になります。

縦横比（アスペクト比）を変える

画像の縦横の比率を変えられます。



3:2



4:3

AUTO



1 [静止画アスペクト比]

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に表示される画像の表示時間を設定することができます。

AUTO



1 [撮影画像の確認時間]

切	画像は表示されません。
2秒、4秒、8秒	設定した時間だけ画像を表示します。画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影ができます。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。

ストロボモードを変える

撮影シーンにあわせて、ストロボモードを変えられます。

P



1 ▶ボタンを押してストロボモードを選ぶ

ストロボ自動発光	暗いところでは自動的にストロボが光ります。
ストロボ発光	ストロボを常に発光させて撮影できます。
スローシンクロ	人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。
ストロボ発光禁止	ストロボを光らせないで撮影することができます。

- ストロボが発光すると、画像の周辺部が暗くなることがあります。
- [ ] では、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正]を[切]にして撮影することをおすすめします。
- [ ] では、ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

ストロボ撮影時に明るさ（露出）を固定する（FE ロック）

ストロボの発光量を記憶できます。


FE ロック


FE ロック未使用（露出オーバー）

P



1 ストロボを上げて、[ϟ] または [ϟ*] にする

2 露出を固定したい被写体にカメラを向ける



3 ✳ボタンを押す



- ストロボが発光し、調光範囲を示す円と [ϟ*] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。

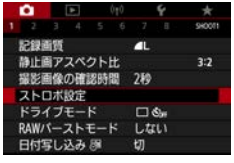
4 構図を決めて撮影する

- FE は、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略でストロボ露出のことです。
- ✳ボタンを押してストロボが発光しても標準露出にならないときは、[ϟ]が点滅します。ストロボ撮影に適した距離で✳ボタンを押して FE ロックを行ってください。

ストロボに関する機能を設定する

ストロボに関するいろいろな機能を設定できます。

P



1 [ストロボ設定]

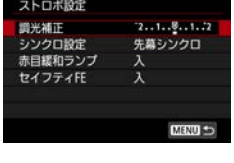
- [ストロボ設定] 画面は、▶ボタンを押してからすぐにMENUボタンを押しても表示できます。

ストロボの調光量を補正する

ストロボ撮影時の露出を 1/3 段ずつ、－ 2 段から＋ 2 段の範囲で補正できます。


マイナス側に補正


プラス側に補正



1 [調光補正]



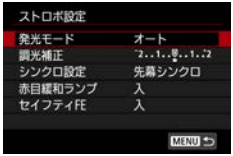
2 補正量を設定する

ストロボ発光量を設定する

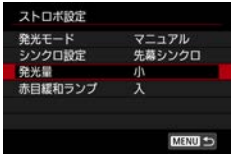
Tv／**Av**／**M**モードでは、ストロボの発光量を３段階から選べます。


発光量：小


発光量：大



1 [発光モード] → [マニュアル]



2 [発光量]

ストロボ発光のタイミングを変える

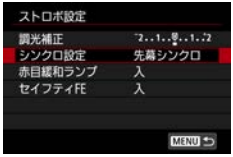
ストロボ発光とシャッターのタイミングを変えることができます。



先幕シンクロ



後幕シンクロ



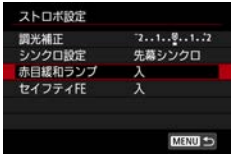
1 [シンクロ設定]

先幕シンクロ	撮影開始直後にストロボが発光します。
後幕シンクロ	シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。

- シャッタースピードが 1/100 またはそれより速いときは、[後幕シンクロ] を選んでいても、ストロボは [先幕シンクロ] の設定で発光します。

赤目緩和機能を使う

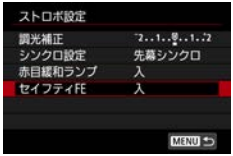
暗いところでストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、人の目が赤く撮影されることを緩和することができます。



1 [赤目緩和ランプ]

セイフティ FE を設定する

ストロボ発光時に、適正露出が得られないときは、自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO 感度が変わって、適正露出で撮影できます。



1 [セイフティ FE]

- シャッターボタンを半押ししたときに画面に表示される数値と異なる設定で撮影されることがあります。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。

AUTO



1 ▲ボタン→ [連写H] または [連写]

2 撮影する
- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

- AUTOモードでは、連続撮影中は 1 枚目を撮影したときのピント位置で固定されます。
- 撮影シーン、カメラの設定によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影条件、カードの種類、連続撮影した枚数によっては、次の撮影までにしばらく時間がかかることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 連続撮影中の画面表示は撮影された画像と異なり、ピントが合ってないように見えることがあります。
- 撮影シーン、カメラの設定によっては連続撮影できる枚数が少なくなることがあります。

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを全押ししてから約 10 秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写るときなどに使います。また、2 秒に設定すると、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。

AUTO



1 ▲ボタン→［10］、［2］または［C］

2 撮影する

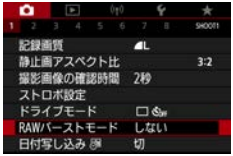
- 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。

- セルフタイマーを設定しても、動画撮影ボタンを押して動画を撮影したときは、セルフタイマーは動作しません。
- ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなります。また、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。

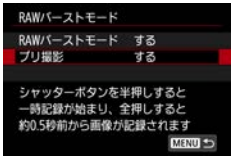
RAW バーストモードで撮る

RAW 画像を高速で連続撮影することができます。撮影した画像から（一瞬のシャッターチャンスを捉えた）ベストショットを選びたいときに有効です。撮影した画像は、1 まとまりのファイル（ロール）として記録されます。ロールから任意の画像を切り出して、保存することができます（191）。

P



1 [RAW バーストモード] → [RAW バーストモード] → [する]



2 [プリ撮影]

する	シャッターボタンを半押しし、一旦その状態を保持してからシャッターボタンを全押しすると、全押しする少し前（最大約 0.5 秒前）から記録されます。
しない	シャッターボタンを全押ししたときから記録されます。

3 撮影する

- 画面に表示されるインジケーターは、内蔵メモリーの状態を表しています。

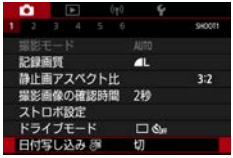
- シャッターボタンを全押しすると、内蔵メモリーがいっぱいになるまで、またはシャッターボタンを離すまで連続撮影されます。

- 十分な空き容量（4GB 以上の空き）があるカードを使用してください。
- RAW バースト撮影を行うときは、SD スピードクラス 10 以上のカードをおすすめします。書き込み速度が速いカードを使用すると、書き込みが完了するまでの時間が短くなります。
- バッテリー残量表示が点滅しているときは、RAW バースト撮影はできません。
- バッテリー残量が少ない状態で、書き込み速度が遅いカードを使用して、RAW バースト撮影を行ったときに、書き込み処理中にバッテリーが切れると、撮影した画像が正常に記録されないことがあります。
- **P**／**Tv**／**Av**モードのときは、ISO 感度の手動設定はできません（ISO オートで撮影されます）。
- **Tv**／**M**モードのときは、1/30 秒よりも遅いシャッタースピードは設定できません。
- 撮影中に AF は行われません（1 枚目を撮影した位置に固定されます）。
- 1 枚目と同じ露出で 2 枚目以降も撮影されます。
- ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどは、1 枚目と同じ設定で 2 枚目以降も撮影されます。
- ［電子音］の設定に関わらず、連続撮影中に電子音は鳴りません。
- RAW バースト画像のファイル名の先頭は「CSI_」、拡張子は「.CR3」です。
- 電子シャッターで撮影が行われます。RAW バースト撮影を行う前に、［電子シャッター］の重要事項やヒントを合わせてお読みください（📖150）。
- RAW バースト画像は、そのままの状態ではパソコンで見ることはできません。このカメラで現像するか、キヤノン製のソフトウェア Digital Photo Professional を使用してください。

日付を写し込む

画像の右下に撮影したときの日付を写し込むことができます。
なお、写し込まれた日付を消したり、修正することはできませんので、あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください(📖25)。

AUTO



1 [日付写し込み] → [日付のみ] または [日付＋時刻]



2 撮影する

- 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が写し込まれます。

- 日付を写し込まなかった画像でも、次の方法で画像に撮影日を入れて印刷することができます。
  ただし、日付を写し込んだ画像を同じ方法で印刷すると、日付が二重に印刷されることがあります。
  - プリンターの機能を使って印刷する
  - 印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する

明るさを変える（露出補正）

静止画や動画を撮影するとき、カメラが決めた標準的な露出を 1/3 段ずつ、－ 3 段から＋ 3 段の範囲で補正できます。


マイナス側に補正


プラス側に補正

P





1 露出を補正する

- 露出補正ダイヤルを回して設定します。

2 構図を決めて撮影する

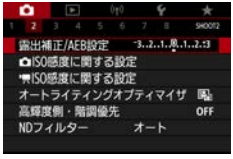
- 露出補正ダイヤル上の「●」（割り当て）ポジションについては、(🕮284)を参照してください。

露出を自動的に変えて撮る（AEB 撮影）

自動的に露出を変えながら、３枚撮影します。補正量は露出補正値を中心に 1/3 段ずつ、－２段から＋２段の範囲で設定できます。


マイナス補正


プラス補正



1 ［露出補正 /AEB 設定］



2 設定する→㊗ボタン

- 露出補正：露出補正ダイヤル
- AEB 設定：リング

3 撮影する

- 手順２で設定した露出を基準として、シャッターボタンを押すたびに、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- ドライブモードが、［高速連続撮影］または［低速連続撮影］のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、３枚連続撮影して自動的に停止します。

- AEB 設定を解除するときは、設定した手順で AEB の補正量を 0 にします。
- **P**／**Tv**／**Av**／**M**／**C** モードでストロボを使用していないときのみ AEB 撮影できます。
- 露出補正をしているときは、設定している値を標準露出とした AEB 撮影ができます。

静止画の ISO 感度を変える

ISO 感度が［AUTO］のときは撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定されます。また、設定する ISO 感度の数値が大きいほど感度が高くなり、小さいほど感度が低くなります。

P

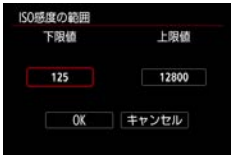


1 ㊗ボタン→［㊗］→内容を選ぶ

- ISO 感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO 感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになります。ただし、画像は粗くなります。
- ［ISO 感度の範囲］で［上限値］を［H(25600)］に設定すると、H(25600)を選ぶことができます。

ISO 感度の範囲を変える

手動で設定できる ISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。



1 📷［📷 ISO 感度に関する設定］→［ISO 感度の範囲］

- H（ISO25600 相当）は拡張 ISO 感度のため、通常よりもノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立ち、解像感も低下します。

ISO オートの範囲を変える

オートにしたときに自動設定される ISO 感度の範囲を設定できます。



1 ［オートの範囲］

ISO オート時のシャッタースピードの低速限界を設定する

P／**Av**モードで ISO オート設定時に、自動設定されるシャッタースピードの下限（低速限界）を設定することができます。



1 ［オートの低速限界］

2 ［自動設定］または［手動設定］

自動設定	リングを回して、標準からの度合い（遅め／速め）を設定します。
手動設定	リングを回して、下限のシャッタースピードを選びます。

- ［オートの範囲］で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、［オートの低速限界］で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。

動画の ISO 感度を変える

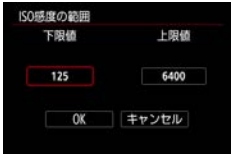
[🎥] モードのときに、ISO 感度を手動設定できます。
ISO 感度が[AUTO]のときは撮影シーンに応じて自動設定されます。また、設定する ISO 感度の数値が大きいほど感度が高くなり、小さいほど感度が低くなります。



1 ㊗ボタン→ [ISO] →内容を選ぶ

ISO 感度の範囲を変える

FHD/HD 動画、4K 動画のときに、手動で設定できる ISO 感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。
設定した内容は、[🎥] モードのときに機能します。



1 📷[🎥 ISO 感度に関する設定]→[ISO 感度の範囲] または [4kの範囲]
- [ISO 感度の範囲] は FHD/HD 動画の設定です。

ISO オートの上限を変える

FHD/HD 動画、4K 動画、タイムラプス動画撮影で、ISO オートにしたときに自動設定される ISO 感度の上限を選ぶことができます。



1 [ISO 感度に関する設定]→[オートの上限] ／ [4kオートの上限] ／ [オートの上限]

- [オートの上限] は FHD/HD 動画の設定です。

明るさ・コントラストを自動補正する（オートライティングオプティマイザ）

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさやコントラストを自動的に補正できます。



弱め



強め

P



1 ㊗ボタン→［］→内容を選ぶ

- 撮影条件によっては、ノイズが増えることがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、画像が明るすぎるときは、［］または［］に設定して撮影してください。
- ［］以外の設定では、露出補正やストロボ調光補正で暗めに設定しても、明るく撮影されたり、露出補正の効果が小さくなることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、［］に設定してください。
- ［］に設定しているときは、連続撮影できる枚数が少なくなることがあります。

明るい被写体を撮影する（高輝度側・階調優先）

高輝度（明るい）側の階調表現性を向上させることで、明るい被写体の白トビをおさえることができます。

P



1 📷［高輝度側・階調優先］

- 高輝度側・階調優先を［D+］［D+2］に設定すると、ISO 感度を［200］以下には設定できません。また、オートライティングオプティマイザは［AUTO］に固定されます。
- 撮影シーンによっては、［D+2］を選んでも思いどおりの効果が得られないことがあります。

NDフィルターの設定を変える

NDフィルターオートのときは撮影シーンに応じて自動で光量を1/8に減少（3段分）させて、適正な明るさにします。[ND ON]を選ぶとシャッタースピードを遅くしたり、絞り数値を小さくできます。

P



1 ボタン→ [ND AUTO] →内容を選ぶ

- [ND ON]を選んだときは、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正]を[切]にして撮影することをおすすめします。
- NDは、Neutral Density（ニュートラルデンシティー）の略です。

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。

P



1 ㊗ボタン→［⦿］→内容を選ぶ

⦿ 評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、カメラが露出を自動補正します。
⊡ スポット測光	画面中央に表示される［◯］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。
⊟ 中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。

測光タイマーを設定する

シャッターボタンを半押ししたときに表示される露出値の表示時間を変えることができます。

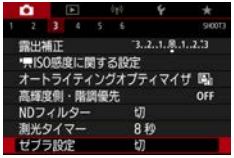
P



1 [測光タイマー]

露出調整をしやすい表示にする（ゼブラ設定）

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。



1 [ゼブラ設定]



2 [ゼブラ] → [入]
[ゼブラ選択] →内容を選ぶ

ゼブラ 1	設定輝度値の周辺範囲を左上から右下の斜線表示します。
ゼブラ 2	設定輝度値以上の範囲を左下から右上の斜線表示します。
ゼブラ 1+2	[ゼブラ 1]、[ゼブラ 2] の両方を表示します。[ゼブラ 1] と [ゼブラ 2] の表示領域が重なる場合は、斜線を重ねて表示します。

3 [ゼブラ 1 レベル]、[ゼブラ 2 レベル]
→輝度レベルを設定する

- 最大輝度値を 100%として、設定した輝度レベルの部分がゼブラ表示されます。

露出 Simulation 機能を設定する

露出 Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。映像が見やすいように、標準的な明るさで表示したいときは、この機能は使いません。

P



1 [露出 Simulation]

自然な色あいにする（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。


太陽光


くもり


白熱電球

P



1 ㊗ボタン→ [AWB] →内容を選ぶ

オートホワイトバランスを設定するとき

- ✳ボタン→◀／▶ボタン

ホワイトバランスを補正するとき

- MENUボタン→▲／▼／◀／▶ボタン

ホワイトバランスブラケティングを設定するとき

- MENUボタン→◉ホイール
- 1 回の撮影で色合いの異なる 3 枚の画像が記録されます。

ホワイトバランスの色温度を設定するとき

- [K] →✳ボタン→◀／▶ボタン

- 補正量を設定したあとにホワイトバランスの項目を変えても、補正量はそのまま保持されます。
- 補正量の詳細設定をする画面の B はブルー、A はアンバー、M はマゼンタ、G はグリーンの意味です。
- ブルー／アンバー方向の 1 段は、色温度変換フィルターの約 5 ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。
- 設定できる色温度の範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。

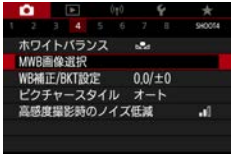


1 白い被写体を撮影する

- 画面全部を白い無地の被写体にして、ピントを合わせて撮影します。
- (SET)ボタンを押します。



2 [WB] → [ ]



3 [MWB 画像選択]



4 白データを取り込む

- 手順 1 で撮影した画像を選ぶ→(SET)ボタン→[OK]
- MENUボタンで撮影画面に戻ります。

- 撮影した白い被写体の画像が明るすぎたり暗すぎたりすると、ホワイトバランスが設定できないことがあります。
- 画像を選びなおすときは［キャンセル］を選んでください。［OK］を選ぶとその画像で白データが取り込まれますが、適切なホワイトバランスにならないことがあります。
- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや 18%標準反射板を撮影すると、より正確なホワイトバランスを設定できます。
- 白い被写体を撮影するときのホワイトバランスはどの設定でもかまいません。

好みの色あいを選ぶ（ピクチャースタイル）

撮影シーンや被写体にあわせて、好みの色あいを選べます。

P



1 ㊗ボタン→ [ピクチャースタイル：オート] →内容を選ぶ

ピクチャースタイル：オート	オート	撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。
ピクチャースタイル：スタンダード	スタンダード	鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。
ピクチャースタイル：ポートレート	ポートレート	肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。[色あい] を変えると、肌色を調整できます。
ピクチャースタイル：風景	風景	青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。
ピクチャースタイル：ディテール重視	ディテール重視	被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。
ピクチャースタイル：ニュートラル	ニュートラル	パソコンでの画像処理を前提とした設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

F	忠実設定	パソコンでの画像処理を前提とした設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリをおさえた落ち着いた写真になります。
M	モノクロ	白黒写真になります。
1 2 3	ユーザー設定	［ポートレート］や［風景］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録して、好みにあわせて調整できます。

- ［1］［2］［3］が未登録のときは、［オート］の初期設定と同じ設定になります。

ピクチャースタイルを自分の好みに調整する

好みにあわせて、ピクチャースタイルのコントラストや色の濃さなどを調整できます。

P



1 ボタン→［］→内容を選ぶ→MENUボタン



2 設定する

- 項目：▲／▼ボタン
- 内容：◀／▶ボタン

シャープネス	強さ	輪郭線の強調レベルを調整できます。数値が小さいほど柔らかい（ぼやけた）感じに、数字が大きいほど硬い（シャープな）感じになります。
	細かさ	強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。
	しきい値	「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくすると、ノイズも強調されやすくなります。
コントラスト		コントラスト（明暗差）を調整できます。数字が小さいほどコントラストが弱く、数字が大きいほど強くなります。
色の濃さ *1		色の濃さを調整できます。数字が小さいほど薄く、数字が大きいほど濃くなります。
色あい *1		肌の色あいを調整できます。数字が小さいほど赤めに、数字が大きいほど黄色寄りになります。

フィルター効果 *2	モノクロの画像で白い雲や木々の緑を強調できます。 N: フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。 Ye: 青空がより自然になり、白い雲がはっきりと浮かび上がります。 Or: 青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。 R: 青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。 G: 人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。
調色 *2	モノクロの色を、[N:なし] [S:セピア] [B:青] [P：紫] [G：緑] から選べます。

*1 [M] では設定できません。
*2 [M] でのみ設定できます。

- [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、動画には反映されません。
- [コントラスト] を強くすると、[フィルター効果] がより強調されます。

好みのピクチャースタイルを登録する

[P] [L] などの基本スタイルを好みにあわせて調整して、登録できます。シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを準備できます。

P



1 ボタン→[A]→[1][2][3]から選ぶ→MENUボタン



2 設定する

- 項目：▲／▼ボタン
- 内容：◀／▶ボタン

高感度撮影時のノイズを低減する



ノイズ低減の強さを［弱め］［標準］［強め］の3種類から選べます。特に高いISO感度で撮影するときに有効です。

P



1 [高感度撮影時のノイズ低減]

マルチショットノイズ低減機能を使う



1回の撮影で4枚連続撮影して自動的に画像合成を行うことで、ノイズを低減することができます。［高感度撮影時のノイズ低減］の［強め］と比べ、画質の低下をおさえながらノイズを低減することができます。



1 [高感度撮影時のノイズ低減] → [マルチショットノイズ低減機能]

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、思いどおりの効果が得られないことがあります。三脚などでカメラが動かないように固定することをおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 撮影条件によっては、画像周辺部にノイズが発生することがあります。
- ストロボ撮影はできません。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。処理が終わるまで次の撮影はできません。

画面をタッチして撮る（タッチシャッター）

シャッターボタンを押す代わりに、画面をタッチして撮影します。被写体にピントと明るさを合わせ、かんたんに撮影することができます。

AUTO



1 設定する

- [ ] をタッチして [ ] にします。



2 撮影する

- ピントを合わせたい部分にタッチします。

- ピントが合わないときは、AF フレームが黄色で表示されます。

電子シャッターで撮る

通常はメカシャッターで撮影が行われますが、電子シャッターに設定すると、より高速なシャッタースピードで撮影することができるようになります。

P



1 [シャッター方式] → [電子シャッター]

2 撮影する

- 明るい環境下で、高速シャッターで撮影したいときに適しています。
- 最高シャッタースピードが 1/25600 秒になります。
- カメラを動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、画像がゆがんで撮影されることがあります。
- 蛍光灯などのフリッカー光源下では、画面がちらついたり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすると、改善することがあります。
- 撮影を行うと、露光中、画面の外側に白い枠が表示されます。ただし、シャッタースピードが 1 秒以下のときは表示されません。
- [電子シャッター] に設定しても、レンズの絞りの駆動音が発生します。また、その他の撮影条件により作動音が発生することがあります。
- 撮影条件によっては、撮影後、画像処理のためにメカシャッターが動作することがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- 連続撮影、ストロボ撮影はできません。

サーボ AF で撮る

シャッターボタンを半押ししている間は青色で AF フレームが表示され、被写体にピントと露出を合わせ続けます。動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。

P



1 ㊗ボタン→ [ONE SHOT] → [SERVO]

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

3 全押しして撮影する

- ピント合わせ中は、シャッターボタンを全押ししても撮影できないことがあります。被写体を追いながらシャッターボタンの全押しを続けてください。
- サーボ AF に設定すると、シャッターボタンを半押ししても露出は固定されず、撮影する瞬間に露出が決まります。
- サーボ AF に設定すると、ピントを合わせ続けながら連続撮影ができます。このとき、連続撮影速度が遅くなります。
- 被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。

AF 方式を選ぶ

撮影シーンや被写体にあわせて、AF（自動ピント合わせ）の方法を変えることができます。

P



1 ボタン→ [AF] →内容を選ぶ

+追尾優先 AF	カメラが主被写体と判断した顔にピントを合わせて、撮影できます。一定の範囲で追尾します。
スポット 1 点 AF	1 点 AF より小さい 1 点のフレームでピント合わせを行います。
1 点 AF	1 点のフレームでピント合わせを行います。確実なピント合わせに有効です。

- 暗い被写体、明暗差（コントラスト）のない被写体、非常に明るいシーンでは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

+ 追尾優先 AF

- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレームが表示されます。
- カメラを被写体に向けても顔が検出されないときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレームが表示されます。
- 次のときは、被写体の顔が検出されないことがあります。
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。

AF フレームの位置を変える

AF 方式が［1 点 AF］と［スポット 1 点 AF］のときは、AF フレームの位置を変えることができます。



1 **画面をタッチする**

- ピントを合わせたい位置にタッチします（タッチ AF）。
- 元の位置（中央）に戻る：MENUボタン

フォーカス設定を切り換える

コンティニュアス AF 機能は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせます。設定を変えると、シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせるようにすることができます。

P



1 [コンティニュアス AF]

する	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
しない	通常はピント合わせを行わないため、消費電力をおさえることができます。ただし、ピント合わせに時間がかかることがあります。

AF 補助光（ランプ）の投光を設定する

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯させるかどうか設定できます。

P



1 [AF 補助光の投光]

自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う（フォーカスブラケット撮影）

フォーカスブラケット撮影は、1 回のレリーズで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。
深度合成機能のあるキヤノン製ソフトウェアDigital Photo Professionalなどを使用すると、撮影した画像から広い範囲にピントの合った画像を生成することができます。

P



1 [フォーカス BKT 撮影] → [フォーカス BKT 撮影] → [する]



2 設定する

撮影回数	1 度に撮影する回数（枚数）を設定できます。
ステップ幅	ピントの移動幅を設定できます。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。

3 撮影する

- フォルダを作成するとき：[] をタッチ→ [OK]
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が始まったら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影されます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影が終了します。

- 三脚などでカメラが動かないように固定してください。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。
- 絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 適切な［ステップ幅］は被写体により異なります。［ステップ幅］が適切でないときは、合成した画像にムラが生じたり、撮影枚数が多くなり、撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行なって［ステップ幅］の目安を確認しておくことをおすすめします。
- ストロボ撮影はできません。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO 感度などは 1 枚目の条件で固定されます。
- 撮影を途中で中止するときは、シャッターボタンをもう一度全押しします。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professional で画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。
- 電子シャッターで撮影が行われます。フォーカスブラケット撮影を行う前に、［電子シャッター］の重要事項やヒントを合わせてお読みください(📖150)。
- ［ピクチャースタイル］が［オート］に設定されているときは、［スタンダード］で撮影されます。
- 電源を切ると［フォーカス BKT 撮影］が［しない］になります。
- 深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- 撮影回数を多く設定すると、合成に時間がかかります。

ピントを微調整する

オートフォーカスのあとに、コントローラーリングを使ってピントを微調整することができます。

P



1 [AF+MF] → [する]

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。

3 ピントを微調整する

- リングを回すと表示される、MF インジケーターの距離表示とピント位置を示すバーを目安に、拡大表示を見ながらリングを回してピントを調整します。
- 拡大表示の倍率を変えるときは、▶ボタンを押します。

4 撮影する

- サーボ AF とは一緒に使えません。

手ブレ補正の設定を変える

手ブレ補正の設定を変えることができます。

P



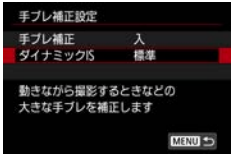
1 [手ブレ補正設定] → [手ブレ補正]

切	手ブレ補正を切ります。
入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定されます。
撮影時	撮影する瞬間のみ手ブレ補正します。

- 動画を撮影するときは、[手ブレ補正] を [撮影時] に設定していても、[入] に変わります。
- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にすることをおすすめします。

非常に強い手ブレを補正する

動きながら動画を撮影するときなどの非常に強い手ブレを補正します。[標準] よりも画面に表示される範囲が変わり、さらに被写体が大きくなります。



1 [ダイナミック IS] → [強]

自動水平補正を使う

動画を撮影するときに、画面を水平に保つように補正します。撮影をはじめると、画面に表示される範囲が変わり被写体が大きくなることがあります。

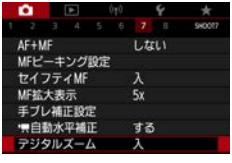


1 [自動水平補正]

デジタルテレコンバーターを使う

レンズの焦点距離を 1.6 倍／2.0 倍にできます。ズーム操作(デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。

P



1 [デジタルズーム] → [テレコン 1.6x] または [テレコン 2.0x]

- 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。

- ズームレバーをT側に押してもっとも望遠側にしたときのシャッタースピードは、デジタルズーム領域まで拡大したときのシャッタースピードと同じになることがあります。

動画の記録サイズを変える

動画の記録サイズを設定できます。フレームレートとは 1 秒間に何コマ記録するかのことで、ビデオ方式の設定にあわせて選択できる項目が変わります。



1 ㊗ボタン→［FHD 29.97P］→内容を選ぶ

- ［4K 29.97P］［4K 23.98P］［4K 25.00P］は、モードのときのみ設定できます。
- 1 回の撮影時間は、4K 動画撮影時は最長 9 分 59 秒、FHD/HD 撮影時は最長 29 分 59 秒です。
- 動画のファイル名の先頭は「MVI_」、拡張子は「.MP4」です。
- 動画を連続して撮影すると、カメラの内部の温度が上昇し、しばらくの間、撮影できなくなることがあります。
- カメラを使用しないときは、こまめに電源を切るようにすると、カメラ内部の温度上昇を抑えることができます。
- カメラの温度管理を正常に行うには、日付／時刻／エリアの設定が必要です。日付／時刻／エリアの設定を行うと、温度警告表示が適切に行われます。
- ［温度上昇のため電源が切れます］と表示されたときは、カメラの電源を切って、少なくとも約 5 分お待ちください。なお、4K 動画で最長 9 分 59 秒、ハイフレームレート動画で最長 7 分 29 秒の動画撮影を行うときは、カメラの電源を切って 20 分以上お待ちください（撮影環境や使用条件により、実際に動画撮影できる時間が上記時間よりも短くなることがあります）。

スロー再生に適した動画を撮る（ハイフレームレート）

フルハイビジョン（FHD）画質で 119.9fps/100.0fps の高フレームレートの動画を撮影することができます。
ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fps の動画ファイルとして記録されるため、再生時は 1/4 倍速のスローモーションで再生されます。

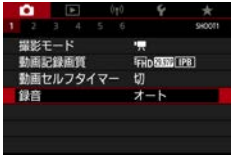


1 [動画記録画質] → [ハイフレームレート]

- シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行ってから撮影を開始してください。
- 1 回の撮影時間は最長 7 分 29 秒です。
- 音声は記録されません。

録音に関する設定をする

録音に関するいろいろな機能を設定できます。



1 [録音]

録音レベル（録音音量）を設定する

録音の設定が［オート］のときは、撮影時に自動で録音レベル（録音音量）調整がされます。撮影シーンにあわせ手動で調整したいときは設定を［マニュアル］に変更します。



1 ［録音］→［マニュアル］



2 ［録音レベル］
- SETボタン→◀／▶ボタン

ウィンドカット

ウィンドカットは、風が強い場所で撮影するときに、風音の影響を低減し雑音をおさえる機能です。風がない場所で撮影したときに不自然な音になることがあります。このときは［ウィンドカット］の設定を［切］に変更します。



1 ［ウィンドカット / アッテネーター］→［ウィンドカット］

アッテネーター

アッテネーターは、大音響で撮影するときに、大きすぎる音をおさえて録音が音割れしないようにする機能です。アッテネーターの設定には、撮影シーンに応じて自動でオン・オフをする［オート］［入］［切］の３種類があります。



1 ［ウィンドカット / アッテネーター］→［アッテネーター］

動画サーボ AF を設定する

動画撮影のときに被写体に対して常にピントを合わせ続けるかどうかや、AF の作動特性を設定できます。



1 [動画サーボ AF]

モード 1（応答性優先）	ピント合わせの速さや応答性を優先しています。被写体に対して敏感にピントを追従させたいときや、動きながら撮影するシーン（歩き撮りなど）に適しています。シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
モード 2（なめらか）	動画撮影におけるピント合わせの自然さや、なめらかさを優先しています。動きの少ない被写体や、風景などの撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
しない	動画撮影中、ピントは固定されます。

- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、[SERVO AF] をタッチするか▶ボタンを押すと、動画サーボ AF を一時的に停止できます。

動画オートスローシャッターを使う

[FHD 59.94P] [HD 59.94P] [FHD 50.00P] [HD 50.00P] での動画撮影中に、シャッタースピードを自動的に遅くするかどうかを設定できます。



1 [オートスローシャッター]

する	暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に 1/30 秒（または 1/25 秒）まで遅くして、明るくノイズを抑えた映像を撮影できます。
しない	［する］設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、［する］に設定したときよりも、映像が暗くなることがあります。

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、［しない］に設定することをおすすめします。

ミニチュア模型のような動画を撮る（ジオラマ風動画）



ジオラマ風動画

指定した範囲以外をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて動画を撮影できます。



1 ㊗ボタン→［ジオラマ］→内容を選ぶ



2 ぼかさない範囲（ジオラマ枠）を設定する

- ▼ボタン→▲／▼ボタンで枠を移動→㊗ボタン



3 ピントを合わせる位置（AF フレーム）を設定する

- ▲／▼／◀／▶ボタンで AF フレームを移動→㊗ボタン

4 撮影をはじめる

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、動画撮影ボタンを押します。

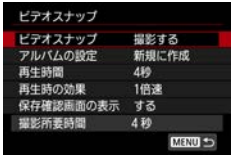
動画を 1 分間撮影したときの倍速と再生時間の目安

倍速	再生時間
5x	約 12 秒
10x	約 6 秒
20x	約 3 秒

- 音声は録音されません。
- [5x] [10x] [20x] を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動きます。そのため、ミニチュア模型のように見えます。
- 手順 2 で◀/▶ボタンを押すと、ジオラマ枠の向きを変えることができます。

ビデオスナップを撮る

1スナップが数秒間（約4／6／8秒）の短い動画「ビデオスナップ」を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。



1 [ビデオスナップ] → [ビデオスナップ] → [撮影する]

2 設定する

再生時間	ビデオスナップの再生にかかる時間を選びます。
再生時の効果	ビデオスナップの再生時にかける効果を選びます。
保存確認画面の表示	撮影後の動作を確認する画面を表示するかしないかを選びます。

- [再生時間] と [再生時の効果] から決まる、実際の撮影にかかる時間（[撮影所要時間]）が表示されます。
- 2回目の撮影からは、[アルバムの設定] で、ビデオスナップを保存するアルバムを選べます。



3 撮影をはじめる

- MENUボタンで撮影画面に戻り、動画撮影ボタンを押します。
- 撮影時間に連動したバーが表示され、自動的に撮影が終わります。



4 アルバムに保存する

- 手順２の［保存確認画面の表示］で［しない］を設定しているときは、この画面は表示されず、ビデオスナップは自動的に手順２の［アルバムの設定］で選んだアルバムに保存されます。
- 必要に応じて手順３～４の操作を繰り返します。

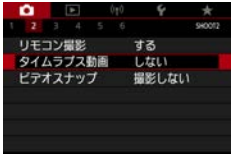
5 ビデオスナップ撮影を終了する

- ㊗ボタン→［♪オン］→［♪オフ］

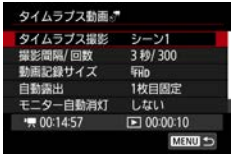
- アルバムの記録時間が５分を超えるときは、新規アルバムに保存されます。
- １スナップの再生時間は目安です。
- 動画の記録サイズは、［FHD 29.97P］または［FHD 25.00P］に設定してください。
- 撮影を途中停止した動画は、通常の動画として保存されます。
- ［再生時の効果］で、［2 倍速］と［1/2 倍速］を選んだときは、音声は録音されません。

タイムラプス動画を撮る

一定間隔で撮影した画像をつなげることで 1 つの動画を作成します。景色の変化など、被写体の変化を早送りで見ることができます。

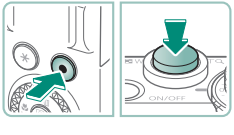


1 [タイムラプス動画] → [タイムラプス撮影] → [シーン*] または [カスタム]



2 設定する
- 撮影間隔などを設定します。

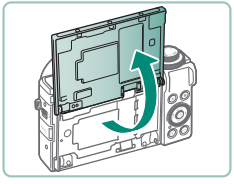
3 撮影画面に戻って準備する
- 三脚などでカメラが動かないように固定します。
- 露出を設定します。
- 確認用の静止画を撮影する：シャッターボタン全押し



4 撮影をはじめる
- 動画撮影ボタン→シャッターボタン全押し

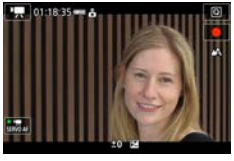
- 項目を設定すると、[🎥] 撮影所要時間と [▶] 動画再生時間が表示されます。
- [モニター自動消灯] で [しない] を選ぶと、撮影開始から約 30 分後に画面が消えます。[する] を選ぶと、1 フレーム目の撮影後、約 10 秒経過すると、画面が消えます。
- 撮影中はカメラに触らないようにしてください。
- 撮影を中止するときは、もう一度シャッターボタン、または動画撮影ボタンを押します。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体がゆがんで写ることがあります。
- 音声は録音されません。

動画で自分を撮る



1 モードにする

2 モニターを開く



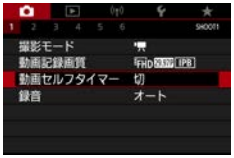
3 [●] にタッチする

- 動画撮影が始まります。[■] にタッチすると終了します。

- 動画撮影中に露出を固定（AE ロック）したいときは、[☀] にタッチします。
- 動画撮影中に手動でピント合わせを行うときは、[AF] にタッチして [MF] にしたあと、[▲] [▼] にタッチしてピントを調整します。

動画セルフタイマーを使う

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。



1 [動画セルフタイマー] → [10 秒] または [2 秒]

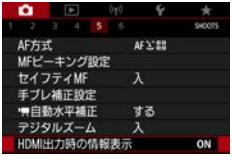
2 撮影する

- [●] にタッチするか、動画撮影ボタンを押すと、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

- 動画セルフタイマーは、通常の動画撮影の際にも使用できます。

HDMI 出力時の情報表示を設定する

HDMI で出力される映像に、画面の情報表示を重ねるかどうか設定できます。

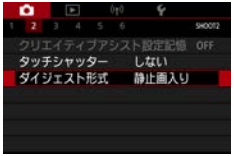


1 [HDMI 出力時の情報表示]

あり	動画撮影中は、情報表示が重なった映像が HDMI 出力されます。カメラのモニターには映像は表示されません。動画撮影を行うことができます。
なし / 4K	4K 映像のみ（情報表示なし）が HDMI 出力されます。カメラのモニターには情報表示が重なった映像が表示されます。動画撮影はできません。
なし / FHD	FHD 映像のみ（情報表示なし）が HDMI 出力されます。カメラのモニターには情報表示が重なった映像が表示されます。動画撮影はできません。

ダイジェスト形式を設定する

モードで撮影すると、静止画とダイジェスト動画が記録されますが、ダイジェスト動画の中に静止状態の映像を記録するかどうかを設定できます。



1 [ダイジェスト形式]

静止画入り	ダイジェスト動画の中に静止状態の映像が記録されます。
静止画なし	ダイジェスト動画の中に静止状態の映像は記録されません。

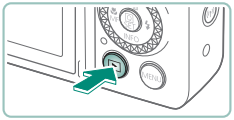
再生

撮った画像を見て楽しんだり、いろいろな機能を使って画像の検索や編集をすることができます。

- ▶ボタンを押して、再生表示にしてから操作してください。

見る

撮影した画像を画面で見ることができます。



1 ▶ボタンを押す



2 画像を選ぶ



- 動画は、[SET] が表示されます。



動画を再生する

- (SET)ボタン→もう一度(SET)ボタン
- ▲／▼ボタンで音量を調整します。



- (1) ハイライトシーン

- カメラの電源が切れた状態で▶ボタンを押すと、画像が再生され、もう一度押すと、電源が切れます。
- 再生表示では、約 1 分経過するとレンズが収納されます。レンズが収納されているときは、▶ボタンを押すと電源が切れます。
- 再生表示の状態で「シャッターボタンを半押しする」、「動画撮影ボタンを押す」、「モードダイヤルを回す」のいずれかの操作で撮影モードになります。
- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像は、再生や編集ができないことがあります。
- 動画の再生中、(SET)ボタンを押すたびに一時停止／再開ができます。
- RAW 画像を表示したとき、縦横比の目安となる線が表示されます。縦横比［16:9］で撮影した画像には画面の上下に、縦横比［4:3］［1:1］で撮影した画像には画面の左右に表示されます。
- 動画再生中に◀ボタンを押すと約 4 秒戻り、▶ボタンを押すと約 4 秒進みます。ダイジェスト動画再生中に押したときは、前後のチャプターへのジャンプになります。

ハイライトシーンについて

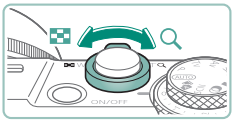
- 動画再生パネルに表示される青い帯（部分）は、カメラが自動的に検出した「ハイライトシーン」（動画内の注目箇所）です。動画によっては青い帯（部分）が表示されるまでに時間がかかることがあります。なお、ハイライトシーンが長いときは、青い帯が自動的にいくつかに区切られることがあります。
- 動画再生時に(リング)リングを操作すると、ハイライトシーンの先頭にジャンプします。ハイライトシーンが複数あるときは、前後のハイライトシーンの先頭へのジャンプになります。
- 以下の動画のときは、「ハイライトシーン」の検出は行われません。
  - ダイジェスト動画
  - ジオラマ風動画
  - ビデオスナップ
  - ハイフレームレート動画
  - HDR 動画
  - タイムラプス動画

拡大して見る

画像を拡大して見ることができます。







1 画像を選ぶ

2 拡大／縮小する

- 拡大：ズームレバーQ側
- 縮小：ズームレバー側



- 表示位置の移動：▲／▼／◀／▶ボタン

- 画像を拡大して再生しているときに、ホイールを回すと拡大したまま画像を切り換えられます。

短編動画（ダイジェスト動画）を見る

モードで静止画を撮影すると短編動画（ダイジェスト動画）が作成されます。ダイジェスト動画は、作成された日にちごとに再生されます。



1 [SET] 画像を選ぶ



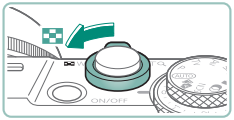
2 ボタン→ [] を選ぶ

- 静止画を撮影した日に作成されたダイジェスト動画が先頭から再生されます。

- 情報表示なしにしているときは、一定時間で [SET] が消えます。

一覧表示（インデックス表示）で探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。



1 ズームレバーを側に押す

- 表示画像数を増やす：ズームレバー側
- 表示画像数を減らす：ズームレバー側



2 画像を探す

- ▲／▼／◀／▶ボタンまたはホイール
- リング：画面送り

3 画像を選ぶ

- ボタン

動画を編集する

動画の前後を削除する

撮影した動画の前後を削除できます。



1 [SET] 動画を選ぶ



2 ボタン→ [▶]



3 [✂] を選ぶ

- 再生中にボタンを押して [✂] を選びます。
- 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。



4 編集範囲を指定する

- [] または [] を選びます。
- ◀／▶ボタンを押して [] または [] を動かすと、編集できるところで [] が表示されます。編集するところで、ボタンを押します。

5 編集した動画を確認する

- 再生：[▶]
- 編集中止：MENUボタン



6 保存する

- [] → [新規保存]
- 圧縮して新規保存する：[] → [OK]

[圧縮して新規保存] を選んだときの圧縮後の画質

圧縮前	圧縮後
4K 29.97P、FHD 59.94P、FHD 29.97P	FHD 29.97P
4K 23.98P、FHD 23.98P	FHD 23.98P
4K 25.00P、FHD 50.00P、FHD 25.00P	FHD 25.00P
HD 59.94P	HD 29.97P
HD 50.00P	HD 25.00P

- 編集範囲を指定するときに [] または [] を [] 以外の位置に指定しても、[] では 1 つ左側の [] 位置よりも前部、[] では 1 つ右側の [] 位置よりも後部が削除されます。
- ダイジェスト動画（62）、ビデオスナップ（172）のときは、チャプター単位での削除になります。
- 編集した動画を保存する画面で［上書き保存］を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、［上書き保存］しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーを使うことをおすすめします。

4K 動画のフレームを静止画として切り出す

[4K 29.97P] [4K 23.98P] [4K 25.00P] で撮影された動画は、任意のフレームを静止画として保存できます。



1 切り出すフレームを選ぶ

- 再生中に㊗ボタンを押して［◀‖］または［‖▶］でフレームを選びます。



2 保存する

- ［］→［OK］

ダイジェスト動画を編集する

モードで作成されたチャプター（62）を 1 つずつ選んで消すことができます。消したチャプターは元に戻すことはできないため、十分に確認してから消してください。



1 [SET] 画像を選ぶ



2 ボタン→ [] を選ぶ



3 チャプターを選ぶ

- 再生中にボタンを押して [◀] または [▶] でチャプターを選びます。



4 選んだチャプターを消す

- [] → [OK]

- ［このチャプターを消去しますか？］の画面で［OK］を選んで㊗ボタンを押すと、チャプターが消去され、上書き保存されます。
- ビデオスナップの撮影時に作成されたアルバムも編集することができます。▶［アルバム編集］で作成されたアルバムは編集できません。

RAW バースト画像から静止画を切り出す

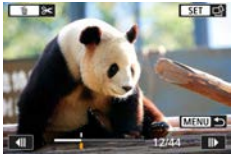
RAW バーストモードで撮影した画像（ロール）から（119）、任意の画像（JPEG/RAW）を切り出すことができます。



1 [SET] 画像（ロール）を選ぶ



2 ボタン→ [] →ボタン



3 画像を選ぶ

- ◀/▶ボタンを押して切り出す画像を選びます。
- ▲ボタンを押すと、ロールの前後を削除することができます。



4 保存する

- ボタン→［JPEG で切り出し］または［RAW で切り出し］
- JPEG 画像を切り出すときに、［編集して保存］を選ぶと、RAW 現像（205）を行ってから保存することができます。

- ［JPEG で切り出し］を選んだときは、［L］の画質で保存されます。
- RAW バースト画像から切り出した JPEG 画像や、切り出した RAW 画像から現像を行った JPEG 画像のときは、クリエイティブフィルター、トリミング、リサイズ処理はできません。

画像を保護する（画像プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、選んだ画像を保護することができます。
保護された画像には、🔑マークが表示されます。



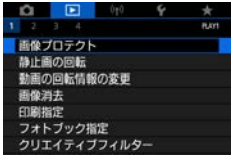
1 画像を選ぶ

2 ㊗ボタン→［🔑］→［する］

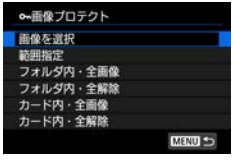
- カードを初期化すると、保護された画像も消えます。
- 保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。
- 指定した条件で画像を検索した結果が表示されているときは、▶［画像プロテクト］または㊗ボタン→［🔑］→✳ボタンで［検索結果･全画像］［検索結果・全解除］が選べます。
  - ［検索結果・全画像］を選ぶと、検索結果として表示されている画像がすべて保護されます。
  - ［検索結果・全解除］を選ぶと、検索結果として表示されている画像の保護がすべて解除されます。
- ▶［画像プロテクト］→［画像を選択］を選んだときの画面に［🔑］が表示された状態で、もう一度㊗ボタンを押すと［🔑］が消え、保護が解除されます。

まとめて保護する

画像を選んでまとめて保護することができます。



1 ▶［画像プロテクト］



2 画像を指定する



1 枚ずつ指定する

- ［画像を選択］→画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン



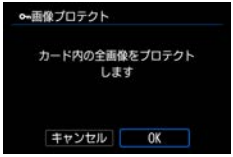
範囲で指定する

- ［範囲指定］→始点の画像を選ぶ→㊗ボタン→終点の画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン



フォルダ内のすべての画像を指定する

- ［フォルダ内・全画像］→フォルダを選ぶ→［OK］



カード内のすべての画像を指定する

- ［カード内・全画像］→［OK］

画像を回転する



画像の向きを変えて保存することができます。

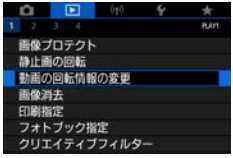
1 画像を選ぶ



2 ㊗ボタン→ [🔍] →内容を選ぶ

動画の回転情報を変更する

動画の回転情報（上の向きの情報）を手動で変更することができます。



1 ▶［動画の回転情報の変更］

2 動画を選ぶ

3 ㊗ボタンを押す

- 画面左上に表示されるカメラと三角のマークを見ながら、㊗ボタンを押して、上の向きを設定します。

画像を消す

不要な画像は消せます。消した画像は元に戻せないので十分に確認してから消してください。



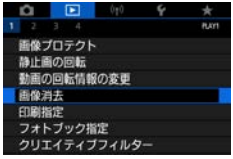
1 画像を選ぶ

2 ▲ボタンを押す
- 消去の項目を選ぶ→(SET)ボタン

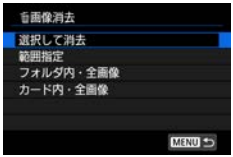
- 保護された画像は消えません。
- RAW と JPEG を同時記録した画像を表示して▲ボタンを押すと、[RAW のみ消去] [JPEG のみ消去] [RAW + JPEG 消去] が表示されます。項目を選んで画像を消すことができます。
- 指定した条件で画像を検索した結果が表示されているときは、▶ [画像消去] で [検索結果・全画像] が選べます。
  - [検索結果・全画像] を選ぶと、検索結果として表示されている画像がすべて消去されます。
- ▶ [画像消去] → [選択して消去] を選んだときの画面に [✓] が表示された状態で、もう一度(SET)ボタンを押すと [✓] が消え、選択が解除されます。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。



1 ▶［画像消去］



2 画像を指定する



1 枚ずつ指定する

- ［選択して消去］→画像を選ぶ→㊗ボタン
- ［✓］が付きます。
- MENUボタン→［OK］



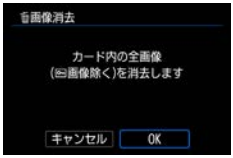
範囲で指定する

- ［範囲指定］→始点の画像を選ぶ→㊗ボタン→終点の画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン→［OK］



フォルダ内のすべての画像を指定する

- ［フォルダ内・全画像］→フォルダを選ぶ→［OK］



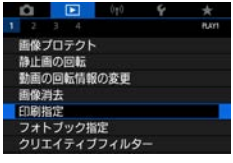
カード内のすべての画像を指定する

- [カード内・全画像] → [OK]

- RAW と JPEG を同時記録した画像を選ぶと両方消去されます。

印刷指定（DPOF）をする

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括で印刷したり（最大 400 画像）、写真店へ印刷を注文することができます（最大 998 画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。



1 ▶［印刷指定］



2 印刷指定をする

画像を指定する

- ［画像選択］または［複数選択］→印刷指定する画像や枚数を指定する
- MENUボタンを押して印刷指定画面に戻ります。

その他の設定をする

- ［設定］→項目を選ぶ→内容を選ぶ
- MENUボタンを押して印刷指定画面に戻ります。

- RAW 画像と動画は指定できません。
- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- ［日付］を［入］に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する



1 カメラと PictBridge 対応プリンターをつなぐ

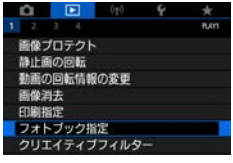
- 再生画面が表示されます。
- (SET)ボタン→［印刷指定］

2 印刷する

- ［印刷］→［OK］

フォトブック指定をする

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定できます（最大998 画像）。



1 ▶［フォトブック指定］



2 画像を指定する

1 枚ずつ指定する

- ［画像を選択］→画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン

範囲で指定する

- ［複数選択］→［範囲指定］→始点の画像を選ぶ→㊗ボタン→終点の画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン

フォルダ内のすべての画像を指定する

- ［複数選択］→［フォルダ内の全画像を指定］→フォルダを選ぶ→［OK］

カード内のすべての画像を指定する

- ［複数選択］→［カード内の全画像を指定］→［OK］

- RAW 画像と動画は指定できません。

画像にフィルター効果をつける（クリエイティブフィルター）

[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] モードで撮影したときと同じような効果を付けて、別画像として保存できます。



1 ㊗ボタン→［ ］→内容を選ぶ



2 詳細を設定する

- レベルを選ぶ：◀／▶ボタン→㊗ボタン
- ［ ］の枠の移動：▲／▼ボタン→㊗ボタン

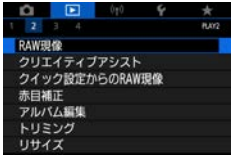
3 保存する

- ［ ］では、フィルター効果の種類を選ぶことができます。
- ［ ］では、タッチしたりドラッグして枠の位置を変えることもできます。
- ［ ］では、［ ］を押すと枠が縦になり、もう一度［ ］を押すと枠が横に戻ります。

RAW 画像を現像する



RAW で撮影した画像をカメラで現像処理することができます。RAW 画像は残したまま、JPEG 画像として保存されます。
モードダイヤルが **P**／**Tv**／**Av**／**M**／**C**モードのときに設定できます。



1 ▶ [RAW 現像]



2 画像を指定する



1 枚ずつ指定する

- [画像を選択] →画像を選ぶ→㊗ボタン
- [✓] が付きます。
- MENUボタン→ [撮影時の設定で現像]



範囲で指定する

- [範囲指定] →始点の画像を選ぶ→㊗ボタン→終点の画像を選ぶ→㊗ボタン→MENUボタン→ [撮影時の設定で現像]



3 保存する



4 表示する画像を選ぶ

- カメラで現像した画像と、Digital Photo Professional で現像した画像は完全に同じにはなりません。
- ［画像を選択］を選んだときの画面に［✓］が表示された状態で、もう一度(SET)ボタンを押すと［✓］が消え、選択が解除されます。
- RAW バーストモードで撮影した画像（ロール）は、この操作では現像できません。ロールから RAW 画像の切り出し（191）を行ってから現像してください。

細かく設定して現像する

- ［細かく設定して現像］を選ぶと、画像の明るさや、ピクチャースタイルなどを自分で調整してから現像することができます。
- 現像方法を設定する画面で、項目が選ばれた状態で◉ホイールを回すことでも、それぞれの効果を選ぶことができます。
- 現像方法を設定する画面で、ズームレバーを**T**側に押すと拡大表示になります。
- ✳ボタンを押して◉ホイールを回すと、調整を行った内容（変更後）と、撮影時の内容（撮影時設定）を比較することができます。

好みの効果を付ける（クリエイティブアシスト）

RAW 画像を現像して、好みの効果をつけた JPEG 画像を作成することができます。



1 ㊗ボタン→［🎨］



2 効果を選ぶ
- ◀／▶ボタン→㊗ボタン



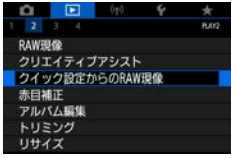
3 効果の度合い・内容を選ぶ
- ◀／▶ボタン→㊗ボタン
- 設定リセット：［リセット］にタッチ

4 保存する
- ✳ボタン

- クリエイティブアシストの効果については、「効果を付けて撮る（クリエイティブアシスト）」（📖60）の表を参照してください。

クイック設定で RAW 現像ができるようにする

再生時のクイック設定項目の［］を［］に変更することができます。
モードダイヤルが **P**／**Tv**／**Av**／**M**／モードのときに設定できます。



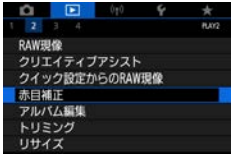
1 ［クイック設定からの RAW 現像］→［RAW 現像］

- 再生時のクイック設定画面で［］が選択できるようになります。

赤目を補正する



目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。別画像として保存できます。



1 ▶［赤目補正］

2 画像を選ぶ

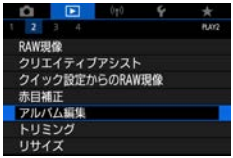
3 (SET)ボタンを押す

4 保存する

- 赤目部分が補正されると、補正した部分に枠が表示されます。
- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。

ビデオスナップを結合して動画作品を作る

複数のビデオスナップを結合して、新しい動画作品（アルバム）を作ることができます。



1 ▶［アルバム編集］



2 動画を指定する

- 動画（既存のアルバム）を選び㊗ボタン→MENUボタン→［OK］



3 編集する

- 手順 2 で選んだ動画に保存されているビデオスナップが表示されます。
- 画面下段の編集メニューを選び㊗ボタンを押します。
- 画面上段で編集の対象のビデオスナップを選び、編集します。

⇄ ビデオスナップ並べ換え	ビデオスナップの順序を入れ換えます。順序を移動させたいビデオスナップを選択し、(SET)ボタンを押します。◀／▶ボタンで移動させることができます。
🗑 ビデオスナップ削除	新しいアルバムには入れないビデオスナップを選択します。［🗑］アイコンが表示されたビデオスナップは新しいアルバムには入りませんが、元のアルバムからは削除されません。
▶ ビデオスナップ再生	選択したビデオスナップを再生します。
編集完了	アルバムの編集を完了します。

4 編集を完了する

- MENUボタンで編集メニューに戻ります。
- ［］を選んで編集を完了します。

5 保存する

- ［保存する］を選びます。
- ［BGM 選択］を選ぶと、BGM をつけることができます。
- ［プレビュー］を選ぶと、新しく編集したアルバムがプレビュー再生されます。

- ［アルバム編集］で作成したアルバムは、編集できません。

画像を切り抜く（トリミング）



撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。



1 ㊗ボタン→［✂］



2 切り抜き範囲を調整する

- 枠サイズ縮小：ズームレバー🔍側
  枠サイズ拡大：ズームレバー▪側
- 枠の位置移動：▲／▼／◀／▶ボタン
- 傾き補正：◉ホイール→［⧄］→㊗ボタン→◉ホイール
- アスペクト比変更：◉ホイール→［⇹］→㊗ボタン
- イメージ確認：◉ホイール→［⧉］→㊗ボタン



3 保存する

- ◉ホイール→［✓］→［OK］

- RAW 画像は編集できません。
- 一度トリミングした画像を、もう一度トリミングすることはできません。
- トリミングした画像に、クリエイティブフィルター処理やリサイズ処理を行うことはできません。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。
- トリミング後のイメージを表示しているときに、トリミングする位置、大きさ、縦横比を変えることもできます。
- ▶ ［トリミング］を選んだあと、画像を選んで㊗ボタンを押すことでも、トリミング枠の大きさ、位置、傾き、縦横比を設定できます。

画像を小さくする（リサイズ）



撮影した画像の画素数を少なくして、別画像として保存できます。



1 ボタン→ [] →内容を選ぶ

2 保存する

- JPEG の [S2] 画像と RAW 画像は編集できません。

お気に入り設定をする（レーティング）

5 段階でお気に入りのレベル（レーティング）を設定して、撮影した画像を分類できます。

1 画像を選ぶ

2 ㊗ボタン→［★］→内容を選ぶ



- 複数の画像を選択するとき：✳ボタン→項目を選ぶ



- ［範囲指定］：始点画像を選ぶ→終点画像を選ぶ→MENUボタン→◑リングでレベルを選ぶ→［OK］

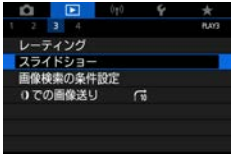


- ［カード内・全画像］：◑リングでレベルを選ぶ→［OK］

- 特定のレベルの画像だけを検索して、次の操作をすることができます。
  - 「見る」、「画像を保護する」、「画像を消す」、「印刷指定（DPOF）をする」、「フォトブック指定をする」、「スライドショーで見る」
- レーティングを解除するときは、㊗ボタンを押して、設定項目の［★］から［OFF］を選び、㊗ボタンを押します。
- ▶［レーティング］で設定すると、フォルダ内の全画像に設定することができます。

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。



1 ▶［スライドショー］→［スタート］

- 再生すると、［画像読み込み中］が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- MENUボタンを押すと、スライドショーが終わります。
- スライドショー中に節電機能は働きません。
- 再生中に㊗ボタンを押すと一時停止／再開ができます。
- 再生中に画面をタッチしてスライドショーを一時停止することもできます。
- 再生中に◀／▶ボタンを押すか⚙ホイールを回すと画像を切り換えられます。◀／▶ボタンを押したままにすると早送りできます。
- スライドショーを開始する画面で［設定］を選ぶと、スライドショーの繰り返しや再生画像 1 枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果（再生効果）を変えられます。

指定した条件で画像を探す

カード内に多くの画像があるときは、指定した条件で画像を検索して、目的の画像を素早く探せます。



1 ㊗ボタン→［🔭］



2 条件を指定する

- 項目：▲／▼ボタン
- 内容：◀／▶ボタン



3 指定を完了する

- MENUボタン→［OK］
- 検索した画像が黄色の枠つきで表示されます。

検索を解除するとき

- ㊗ボタン→［🔭］→✳ボタン→MENUボタン→［OK］

- 検索した画像の表示中は黄色の枠が表示され、㊗ボタンを押すと検索した画像だけをまとめてプロテクトやレーティングすることができます。
- 画像を編集して新規保存などを行うとメッセージが表示されて、検索した画像の表示が解除されます。

コントローラーリングで画像を探す

リングを使って、指定した条件で画像を飛ばして、目的の画像を素早く探せます。



1 ボタン→［］→内容を選ぶ



2 画像を探す

- リング

再生時の情報の表示内容を設定する

再生表示で▼ボタンを押すと、表示される撮影情報が切り換わります。表示させたい撮影情報を設定できます。



1 ▶［再生情報表示設定］



2 ▲／▼ボタンを押して画面を選ぶ

- 表示する画面は、㊗ボタンを押して［✓］を入れます。
- 非表示にする画面は、㊗ボタンを押して［✓］を外します。
- ✳ボタンを押すと、画面に表示するヒストグラムを設定できます。
- ［OK］を選ぶと設定されます。

前回の画像から再生する

電源オフ／オンを行ったあと、再生画面にしたときに表示される画像の開始位置を設定できます。



1 ▶［前回の画像から再生］

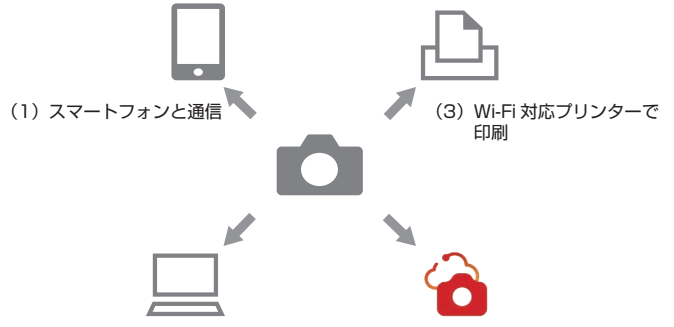
する	前回再生画面で表示した画像を表示します。
しない	最新の画像を表示します。

無線機能

カメラで撮影した画像を無線でいろいろな無線対応機器へ送ったり、Webサービスを利用することができます。
無線機能を使う前に「無線機能について」(📖317)を必ずお読みください。

- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- 無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

無線機能でできること



（1） スマートフォンと通信（224、231）
スマートフォンやタブレットに Wi-Fi 接続して、専用アプリケーション Camera Connect を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。
また、Bluetooth®* で接続したときは、位置情報の付加などを行うことができます。
なお、本ガイドでは、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。
* Bluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）

（2） パソコンへ画像を自動送信（238）
パソコンに Wi-Fi 接続し、Image Transfer Utility 2 を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

(3) Wi-Fi 対応プリンターで印刷（234）
Wi-Fi で使える PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターに Wi-Fi 接続して、画像を印刷することができます。

(4) Web サービスへ画像を送信（242）
キヤノンユーザーのためのクラウドサービス image.canon（登録無料）に、撮影した画像をカメラから直接送信することができます。image.canon は送信された画像のオリジナルファイルを 30 日間、容量無制限で保管し、そこから PC にダウンロードしたり、他の Web サービスに転送することができます。

- Wi-Fi 接続中は、パソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。
- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信の設定ができません。インターフェースケーブルを取り外してから設定してください。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi 接続できません（[]は除く）。また、[] および Web サービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi 接続できません。
- カメラの電源を OFF にしたときや、カード／バッテリーを取り出したときは、Wi-Fi 接続が終了します。

カメラ内の画像をスマートフォンに保存する

Bluetooth 対応スマートフォンとカメラを Wi-Fi 接続し、カメラ内の画像をスマートフォンに保存することができます。
スマートフォンは、事前に以下の準備をします。

- スマートフォンに専用のアプリケーション Camera Connect（無料）をインストールする必要があります。
- アプリケーションの詳細（対応するスマートフォンや機能など）については、弊社 Web サイトで確認してください。
- Camera Connect は、Google Play または App Store からインストールすることができます。Google Play または App Store は、スマートフォンの登録時にカメラの画面に表示される QR コードからもアクセスできます。
- スマートフォンの OS は、最新のバージョンをお使いください。
- スマートフォンの Bluetooth 機能と Wi-Fi 機能を ON にしてください。なお、スマートフォンの Bluetooth 機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

- Camera Connect が対応している OS のバージョンについては、Camera Connect のダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラや Camera Connect の画面表示と機能は、カメラのファームウェアアップデートや Camera Connect、Android、iOS などのバージョンアップにより変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なることがあります。



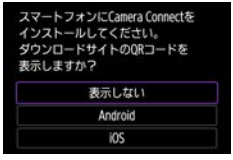
1 (ψ) [Wi-Fi/Bluetooth 接続]



2 [スマートフォンと通信]

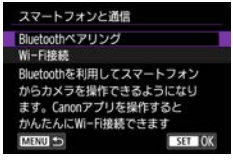


3 [接続先の機器の追加]

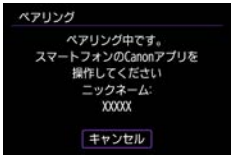


4 項目を選ぶ

- Camera Connect をインストール済みのときは［表示しない］を選びます。
- Camera Connect がインストールされていないときは、[Android] または [iOS] を選んで表示される QR コードをスマートフォンで読み取り、Google Play または App Store にアクセスして Camera Connect をインストールします。



5 [Bluetooth ペアリング]





- 2 台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、左の画面で［OK］を選びます。



6 Camera Connect を起動する

7 ペアリングするカメラを選ぶ

Android のとき

- カメラのニックネームをタッチする

iOS のとき

- カメラのニックネームをタッチする→［ペアリング］



8 カメラで［OK］を選ぶ



- ペアリングが完了して、スマートフォンと Bluetooth 接続されます。



9 Camera Connect で［カメラ内の画像一覧］をタッチする

- 自動的に Wi-Fi 接続されます。
- iOS のときは、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら［接続］をタッチします。

10 Wi-Fi 接続完了を確認する

- スマートフォンにカメラ内の画像の一覧が表示されます。
- カメラに［Wi-Fi 動作中］画面が表示されます。



11 スマートフォンにカメラ内の画像を保存する

- スマートフォンに表示されたカメラ内の画像の一覧から、画像を選んで保存します。

- Bluetooth 接続中にカメラのバッテリーを取り出すと、Bluetooth 接続が切れます。バッテリーを入れて電源を入れると再接続します。
- スマートフォンとペアリングしたあとは、カメラの電源が切れている状態でもバッテリーを消耗するため、カメラを使うときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。
- Bluetooth 機能使用中は、カメラの電源を切っても Bluetooth で通信ができる状態になっているため、電子機器の使用が制限されている場所では、((•)) [Bluetooth 設定] → [Bluetooth] → [使わない] に設定してください。
- Wi-Fi の電波を出したくないときは、((•)) ［Wi-Fi 設定］ → ［Wi-Fi］ → ［使わない］を選びます。
- カメラのニックネームは、((•)) ［ニックネーム］で変更できます。
- Wi-Fi 接続中または Bluetooth 接続中 (Android のみ) のスマートフォンに、カメラの再生画面で画像を選んで送信することができます。㊗ボタンを押して、［ ］を選びます。

Wi-Fi ボタンでスマートフォンと Wi-Fi 接続する

(ᯤ)ボタンからでも、スマートフォンと Wi-Fi 接続することができます。



1 (ᯤ)ボタンを押す



2 [スマートフォンと通信]



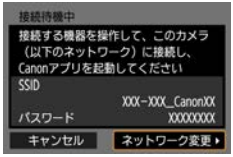
3 [接続先の機器の追加]



4 [表示しない]



5 [Wi-Fi 接続]



6 SSIDとパスワードを確認する



7 スマートフォンをカメラに接続する

- スマートフォンのWi-Fiに関する設定メニューから、カメラに表示されたSSID（ネットワーク名）を選んで接続します。
- スマートフォンのパスワード欄には、カメラに表示されたパスワードを入力します。

8 Camera Connectを起動する

9 接続するカメラを選ぶ

- Camera Connectの［カメラ一覧］から、Wi-Fi接続するカメラを選んでタッチします。



10 Wi-Fi接続を確立する

- ［OK］→㊗ボタン
- カメラの画面に［Wi-Fi動作中］が表示されます。
- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。
- Wi-Fi接続は完了です。

閲覧画像を制限する

スマートフォンに送信したり、スマートフォンで閲覧したりする画像を制限することができます。



1 Wi-Fi が未接続の状態で、(ᯤ)ボタンを押す

2 [スマートフォンと通信]

3 [接続先の機器の編集 / 削除] を選び、スマートフォンを選ぶ

4 [公開画像の設定] を選び、公開する画像を設定する

- 再接続するときは、接続する前に公開画像の設定を確認してください。
- [公開画像の設定] で [すべての画像] 以外を設定しているときは、Camera Connect のリモートライブビュー撮影はできません。

スマートフォンでできること

スマートフォンとカメラを無線接続すると、以下のようなことができます。スマートフォンとカメラは、「カメラ内の画像をスマートフォンに保存する」(🕮224) の手順 1 ～ 8 で Bluetooth 接続を、手順 1 ～ 10 で Wi-Fi 接続をします。

撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信する

撮影しながら、Wi-Fi 接続中のスマートフォンに画像を自動送信することができます。Camera Connect のトップ画面が表示されている状態で以下の操作を行います。



1 (ᯤ)［Wi-Fi 設定］→［スマートフォンへの撮影時画像送信］

2 ［自動送信］→［する］
- ［送信画像サイズ］を設定します。

3 撮影する
- スマートフォンに撮影した画像が送られます。

スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影する

Wi-Fi 接続中のスマートフォンでカメラのライブビュー映像を見ながら、リモート操作で撮影することができます。



1 Camera Connect を起動する

2 ［リモートライブビュー撮影］をタッチする

- リモート撮影では、ピントが合うまでの時間が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。

スマートフォンでカメラを操作する

Bluetooth 接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi 接続中は使用できません。



1 Camera Connect を起動する
- Wi-Fi 接続されていたら切断します。

2 [Bluetooth リモートコントローラー] をタッチする

- Bluetooth リモートコントローラー使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

撮影する画像に位置情報を付加する

Bluetooth で接続しているスマートフォンの GPS 機能を利用して、撮影する画像に位置情報（緯度／経度／標高など）を付加することができます。画像に付加された位置情報は、再生画面で確認できます。
スマートフォンの位置情報取得機能はオンにしておきます。





1 Camera Connect を起動する
- Wi-Fi 接続されていたら切断します。

2 ((•)) [GPS の設定]

3 [スマートフォン連携] → [する]

4 撮影する

- カメラの画面に［ᛒ］と［GPS］が点灯していることを確認して撮影します。
- 撮影した画像に位置情報が付加されます。
- 次回以降、Camera Connect が起動した状態で撮影すると、撮影した画像に位置情報が付加されます。

- 動画には撮影を始めたときの位置情報が記録されます。
- カメラの電源を入れた直後は位置情報が記録されないことがあります。
- 位置情報を記録した静止画や動画は、個人を特定する情報が含まれていることがあります。そのため、位置情報が記録されている静止画や動画を他人に渡したり、インターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- 画像に付加された位置情報は、再生画面を詳細な情報を表示する画面にすると、確認できます。表示内容は上から順に緯度、経度、標高、［UTC］（撮影日時）です。
- ［UTC］は Coordinated Universal Time の略で、協定世界時であるグリニッジ標準時とほぼ同じ日時です。
- お使いのスマートフォンにない項目や正しく記録できなかった項目の数値には「---」が表示されます。

プリンターと Wi-Fi 接続する

カメラとプリンターを Wi-Fi 接続して、カメラ内の画像を印刷することができます。

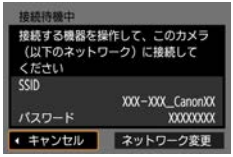
1 (( ))ボタンを押す



2 [🖨]



3 [接続先の機器の追加]

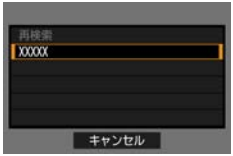


4 SSID とパスワードを確認する



5 プリンターからカメラに接続する

- プリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、カメラに表示されたSSID（ネットワーク名）を選んで接続します。
- プリンターのパスワード欄には、カメラに表示されたパスワードを入力します。



6 プリンターを選ぶ

- Wi-Fi接続するプリンターを選び、㊗ボタンを押します。
- Wi-Fi接続が完了すると、カード内の画像が表示されます。

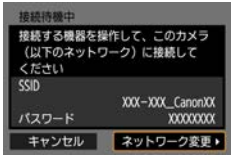


7 画像を選んで印刷する

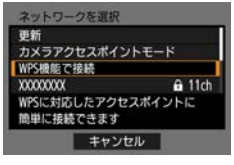
- 印刷する画像を選んで㊗ボタンを押します。
- 表示される項目を選択／設定して印刷します。

アクセスポイント（Wi-Fi 親機）経由での接続方法

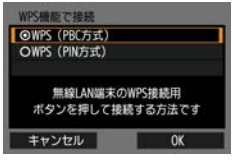
プリンターがアクセスポイントに接続されているときは、カメラもそのアクセスポイントに接続し、アクセスポイント経由で印刷します。
アクセスポイント（Wi-Fi 親機）の WPS ボタンを押しますので、アクセスポイントのそばで接続操作を行ってください。



1 「プリンターと Wi-Fi 接続する」（📖234）の手順 4 で［ネットワーク変更］を選ぶ



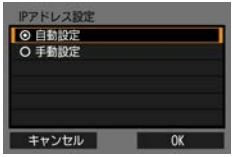
2 ［WPS 機能で接続］



3 ［WPS（PBC 方式）］→［OK］



4 アクセスポイント（Wi-Fi 親機）の WPS ボタンを押す



5 [自動設定] → [OK]

- カメラがアクセスポイントに接続されます。

6 「プリンターとWi-Fi接続する」(📖234) の手順6に進み、以降の操作を行う

- [WPS 機能で接続] で [WPS(PIN 方式)] を選択したときは、画面に表示された PIN コードをアクセスポイントに設定します。次に [接続先の機器の選択] 画面で接続する機器を選びます。詳しくは、お使いのアクセスポイントの使用説明書を参照してください。

パソコンに画像を自動送信する

カメラが自宅など、あらかじめ Wi-Fi 接続設定したアクセスポイントの通信範囲内に置かれたとき、そのアクセスポイントに接続しているパソコンに、カメラ内の画像を自動的に送信するよう設定できます。

Wi-Fi 接続する



1 パソコンをアクセスポイント（Wi-Fi 親機）に接続する

- パソコンに Image Transfer Utility 2 をインストールしておきます。

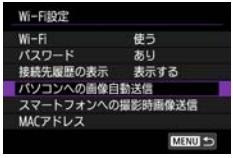
2 Image Transfer Utility 2 を起動する

3 Image Transfer Utility 2 のペアリングを設定する画面を開く

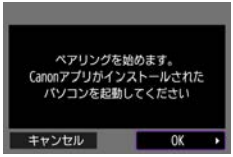
- はじめて Image Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。



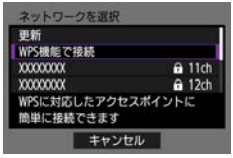
4 (ψ) [Wi-Fi 設定]



5 [パソコンへの画像自動送信] → [自動送信] → [する]



6 [OK]

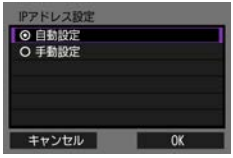


7 [WPS 機能で接続] → [WPS（PBC 方式）] → [OK]

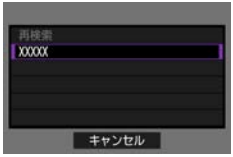


8 WPS 用ボタンを押す

- アクセスポイント（Wi-Fi 親機）の WPS 用ボタンを押すと、カメラとアクセスポイントの接続が行われます。



9 [自動設定] → [OK]



10 パソコンを選ぶ

- 自動送信するパソコンを選び、㊗ボタンを押します。



11 パソコンでペアリングするカメラを選ぶ

- Image Transfer Utility 2 のペアリング画面にカメラのニックネームが表示されます。
- 接続するカメラを選び、［ペアリング］をクリックすると、パソコンとカメラの接続が完了します。

自動送信を設定する



12 送信条件を設定する

- 手順 5 の［パソコンへの画像自動送信］で［送信設定］を選び、送信条件を設定します。

13 カメラの電源を切る

自動送信する

- パソコンをログイン状態にし、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、手順 12 で設定した送信条件で、パソコンにカメラ内の画像を自動送信します。

- 画像の自動送信は、十分残量のあるバッテリーを使用して行ってください。送信中に節電機能は働きません。
- 自動送信が完了したあとに撮影した画像は、パソコンに自動送信されません。カメラの電源を入れなおしたときに自動送信されます。
- パソコンへの画像自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。
- 画像の自動送信をしないようにするときは、［パソコンへの画像自動送信］→［自動送信］→［しない］を選びます。
- USB 接続中（PD-E1 接続時を含む）は、パソコンへの自動送信は行われません。

Web サービスへ画像を送る

- 2025 年の下期以降、欧州、中東、アフリカなどの一部の地域で発売されたものは、この機能は表示されず、使用できません。

image.canon を登録する

アクセスポイント（Wi-Fi 親機）の WPS ボタンを押しますので、アクセスポイントのそばで接続操作を行ってください。
なお、この設定では、カメラ連携設定をするための通知メールを送りますので、お使いのパソコンやスマートフォンのメールアドレスが必要になります。

1 ((•))ボタンを押す



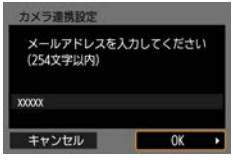
2 [☁]



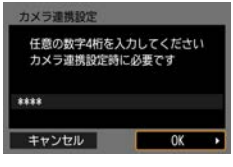
3 メールアドレス入力許諾に同意する
- 表示されている記載を読み、[同意する]を選びます。

4 アクセスポイントへの接続を始める

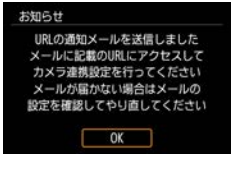
- [WPS 機能で接続] → [WPS（PBC 方式）] → [OK]
- アクセスポイント（Wi-Fi 親機）の WPS ボタンを押します。
- カメラの [IP アドレス設定] 画面で [自動設定] を選びます。



5 メールアドレスを入力する



6 任意の 4 桁の数字を入力する



7 通知メールが送信されたことを確認する

- [OK]



- [☁] が [☁] になります。



8 受信した通知メールの URL にアクセスしてカメラ連携の設定をする

- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。



9 [ ] を選ぶ

- image.canon が送信先として追加されます。

- お使いのパソコンまたはスマートフォンのメール設定が、特定ドメインのメールを受信拒否するようになっていると、通知メールを受信できないことがありますので事前に確認してください。

image.canon に画像を送る



1 (( ))ボタンを押す

2 [ ] を選ぶ



3 画像を送る

- 送信条件を選び、画像を選んで送信します。
- 送信が完了したら表示される画面で［OK］が表示されます。(SET)ボタンを押すと再生表示の画面に戻ります。

映像をライブ配信する

カメラから映像をストリーミングでライブ配信することができます。
あらかじめ YouTube のサイトで、YouTube による映像のライブ配信に必要な要件を確認してください。
ライブ配信のときに限り、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）が使えます。なお、ライブ配信を行う前にワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 とペアリングする必要があります。（301）

カメラに「ライブ配信」を登録して、カメラからライブ配信できるようにします。

- 「image.canon を登録する」（242）を参照して、カメラへの image.canon の登録、およびカメラ連携の設定を行ってください。
- YouTube サイトで、ライブ配信に必要な設定を行ってください。
- 設定方法については、YouTube サイトを参照してください。



1 YouTube によるライブ配信ができるようにする

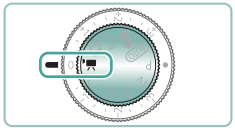
- image.canon の転送先サービスの設定画面を表示します。
- ［YouTube］の［接続する］をクリックまたはタップします。
- YouTube にログインして、image.canon のアクセスを許可してください。



2 [ ]を選ぶ



- [ライブ配信]のアイコンが追加されます。



3 モードにする

- 動画撮影モード（[動画自動露出][動画マニュアル露出]）を選ぶことができます（SETボタン→[撮影モード]で設定できます）。

ライブ配信について

- 本製品のライブ配信サービスは、YouTube でのライブ配信にのみ対応しています。
- ライブ配信サービスを利用する際は、事前に image.canon への登録が必要になります。
- YouTube でのライブ配信は、予告なく変更・停止・終了することがあります。
- YouTube でのライブ配信を含め、第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。

- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません（ただしカメラにカードを入れておく必要があります）。
- [FHD 29.97P]（NTSC）または [FHD 25.00P]（PAL）、約 6Mbps でストリーミングが行われます。
- ライブ配信のときは、[縦位置情報の付加] の設定に関わらず、横位置で映像が配信されます。
- USB 電源アダプター PD-E1（別売）使用して、ライブ配信を行ったときは、バッテリーへの充電は行われません（カメラへの給電のみ）。
- ライブ配信のときは、音声にノイズが発生することがあります。[PRVW]（250）などを行って、事前に音声ノイズの状態を確認してください。外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクをカメラの左側（外部マイク入力端子側）に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信を設定したあとにワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）とペアリングはできません。
- ライブ配信以外で Wi-Fi 接続しているときは、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 は使えません。
- ライブ配信のときは、スマートフォンによるリモコン操作はできません。

ライブ配信

YouTube ライブの画面であらかじめ登録（配信日時やタイトルを設定）したイベントをカメラで選んで、ライブ配信することができます。



1 YouTube ライブの画面でイベントの設定を行う

- 設定方法については、YouTube のサイトを参照してください。

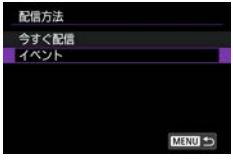


2 [ライブ配信]

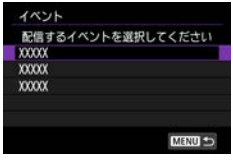


3 利用規約を確認する

- 表示されている記載を読み、[同意する]を選びます。

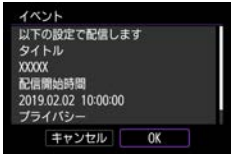


4 [イベント]

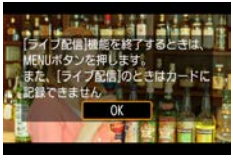


5 イベントを選ぶ

- あらかじめ YouTube ライブで登録したイベントを選びます。



6 配信内容の確認→ [OK]



7 [OK]



8 ⓂSETボタンを押す

- [PRVW] または [LIVE] を選びます。
- [PRVW]（プレビュー）：映像を非公開でテスト配信することができます。配信する映像を事前に確認したいときに有効です。

  [LIVE]：動画撮影ボタンを押すと、すぐに配信を始めることができます。



9 配信を開始する

- 通常の動画撮影と同じように撮影機能を設定します。
- 配信開始の準備ができたら、動画撮影ボタンを押します。
- [プレビュー準備中] または [ライブ配信準備中] のメッセージが表示されたあと、配信が始まります。
- 配信中は画面右上に [● PRVW] または [● LIVE] が表示されます。
- 画面左上に動画撮影ボタンを押してからの経過時間、画面左下に視聴者数が表示されます。
- 映像の配信状態は YouTube ライブの画面で確認してください。



10 配信を停止する

- もう一度動画撮影ボタンを押すと、配信が停止します。
- [PRVW] で映像を確認したあと、ライブ配信を開始するときは、手順 8 に戻って [LIVE] を選びます。



11 機能を終了する

- MENUボタンを押し、[OK] を選びます。

- 手順 9 では配信が始まるまでにしばらく時間がかかります。メッセージが表示されているときは、カメラを操作しないでください。
- イベントは 20 件まで表示されます。
- プレビュー中は、視聴者数は表示されません。
- YouTube の画面で入力した文字が、カメラの画面で適切に表示されない（文字化けしている）ときは、YouTube の画面でその項目を ASCII 文字（半角英数字）で入力し直してください。

2 回目以降の Wi-Fi 接続

一度 Wi-Fi 接続して接続設定が登録された機器や Web サービスに、再度 Wi-Fi 接続します。



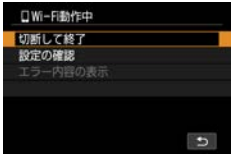
1 (ᯤ)ボタンを押す

2 履歴から接続先を選ぶ
- 接続先が表示されていないときは◀／▶ボタンを押して画面を切り換えます。
- Web サービスのときは、接続が完了します。

3 接続先の機器を操作する
- 画面の指示にしたがい、接続先の機器を操作します。

Wi-Fi 接続を終了する

1 (ᯤ)ボタンを押す



2 [切断して終了] → [OK]

Bluetooth でペアリングしている機器の登録を解除する

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。



1 [Wi-Fi/Bluetooth 接続] → [スマートフォンと通信]

2 [接続先の機器の編集 / 削除]

3 登録を解除するスマートフォンを選ぶ

4 [接続情報の削除] → [OK]



5 スマートフォンを操作する

- OS の Bluetooth 設定画面からカメラの登録を解除します。

接続設定を変更／削除する

カメラに保存されている接続設定の変更や削除を行います。接続設定の変更や削除は、Wi-Fi 接続を終了してから操作します。

1 ((•))ボタンを押す



2 項目を選ぶ

- 左の画面が表示されたら◀／▶ボタンを押して画面を切り換えます。



- 左の画面から、接続設定の変更や削除を行う項目を選びます。



3 ［接続先の機器の編集 / 削除］を選ぶ

- 表示される画面で接続設定を変更する機器を選び、ニックネームの変更などを行います。
- ［ ］がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth 接続を切り換えることができます。［スマートフォンと通信］の画面が表示されたら［Bluetooth 接続］を選び、次の画面で㊗ボタンを押します。

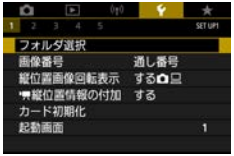
機能設定

カメラの基本機能を変えることで、カメラをより使いやすくできます。

- メニューのタブや★タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます。
- **P**モードを前提に説明しています。

フォルダを選択／作成する

画像を保存するフォルダを選択したり、新しく作成することができます。フォルダ選択画面で［フォルダ作成］を選ぶと、新しいフォルダを作成できます。



1 ［フォルダ選択］



2 設定する

- フォルダの選択：フォルダを選ぶ
- フォルダの作成：［フォルダ作成］→［OK］

- フォルダ名は、「100CANON」のように先頭 3 桁の数字（フォルダ番号）と、5 文字の英数字で構成されています。
- フォルダは 100 ～ 999 まで作成することができます。

画像番号を変える

撮影した画像には、撮影した順に 0001 ～ 9999 の番号がつけられ、1 つのフォルダに 9999 枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。



1 [画像番号] →［番号の付け方］または［強制リセット］

通し番号	画像番号 9999 の画像が撮影／保存されるまでは、カードやフォルダを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が 0001 に戻ります。
強制リセット	新しくフォルダを作成し、画像番号 0001 から始まります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号 0001 の画像から順に保存したいときは、初期化したカードをお使いください。

縦位置画像の自動回転表示を設定する

縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。



1 [縦位置画像回転表示]

する	カメラとパソコンで見るときに自動回転します。
する	パソコンで見るときだけ自動回転します。
しない	自動回転しません。

動画に縦位置情報を付加する

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。



1 [縦位置情報の付加]

する	スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。
しない	スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

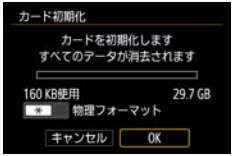
* カメラのモニターで動画を再生したときは、[縦位置情報の付加] の設定に関わらず、横位置で再生されます。

カードを初期化する

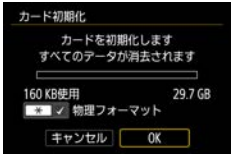
新しく買ったカードやほかのカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
また、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときは、物理フォーマットを行うことで解消することがあります。
初期化、または物理フォーマットをするとカード内のすべてのデータは消され、元に戻すことはできません。



1 [カード初期化]



- 初期化する：[OK]



- 物理フォーマットをする：✳ボタンで［✓］をつける→［OK］

- カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。
- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、カードの初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［キャンセル］を選ぶと、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

起動画面の表示を設定する

電源を入れたときの起動画面の表示を設定できます。



1 [起動画面]

エコモードを使う

撮影モードでのバッテリーの消耗をおさえる機能です。カメラを操作していないときに画面が暗くなり、消費電力がおさえられます。



1 [エコモード]

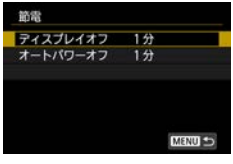
入	カメラを操作しないと約２秒後に画面が暗くなり、その約10秒後に画面が消えます。約３分後には電源が切れます。画面が消えている状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。
切	エコモードを使いません。

節電機能の設定を変える

自動で電源をオフにしたり（オートパワーオフ）、画面を消したり（ディスプレイオフ）するまでの時間を変えることができます。



1 [節電]



2 設定する

- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は、[節電] → [ディスプレイオフ] と [オートパワーオフ] を [1 分] 以下にすることをおすすめします。
- [ディスプレイオフ] は、[オートパワーオフ] が [しない] のときも働きます。

画面の明るさを変える

画面の明るさを変えられます。



1 [画面の明るさ]



2 設定する

- ◀/▶ボタン→(SET)ボタン

- 撮影画面や再生表示で1枚表示のときに▼ボタンを1秒以上押したままにすると、画面が最高の明るさになります([画面の明るさ]設定は無効になります)。もう一度▼ボタンを1秒以上押したままにするか、電源を入れなおすと、元の明るさに戻ります。

画面に表示される情報の色を変える

画面に表示される情報やメニュー画面の色を、暗いところで撮影をするときに適した色に変えられます。[🌃] [🌃] [🌃] [🌃] モードなどで撮影するときは、[入] にすることをおすすめします。

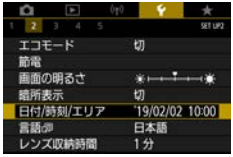


1 [暗所表示]

- 撮影画面や再生表示で 1 枚表示のときに▼ボタンを 1 秒以上押したままにすると、[暗所表示] を [切] に戻せます。

日付／時刻／エリアを変更する

日付／時刻／エリアを、現在の設定から変えられます。



1 [日付 / 時刻 / エリア]

2 設定する

- 「日付／時刻／エリアと言語を設定する」(📖25) の手順２～３の操作で設定します。

言語を変更する

言語を現在の設定から変えられます。



1 [言語]

2 設定する

- ▲／▼ボタンで言語を選ぶ→(SET)ボタン

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約 1 分経過すると、安全のためレンズが収納されます。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0 秒］に設定します。



1 ［レンズ収納時間］

ビデオ方式を設定する

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画で選べる画質（フレームレート）が変わります。



1 [ビデオ方式]

NTSC	テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
PAL	テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

タッチパネルの設定を変える

タッチパネルの感度を上げて軽いタッチにも敏感に反応するようにしたり、画面に触れてもタッチパネルが反応しないようにできます。



1 [タッチ操作]
- タッチパネルの感度を上げる：[敏感]
- タッチパネルを使わない：[しない]

- タッチ操作が感知されにくいときは、タッチパネルの感度を上げてください。
- タッチパネルを操作するときは次のことにご注意ください。
  - 感圧式ではありません。爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
  - 濡れた指で操作しないでください。
  - 画面に水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源をいったん切ってから、布などでふき取ってください。
  - 画面に、市販の保護シートやシールを貼らないでください。タッチの反応が悪くなることがあります。
- [敏感] に設定して素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

電子音の設定を変える

シャッターボタンを半押ししたときやセルフタイマーなどの電子音を鳴らすかどうか設定できます。



1 [電子音]

音量を変える

カメラの各種動作音の音量を変えられます。



1 [音量]



2 設定する

- (SET)ボタン→◀／▶ボタン

HDMI 出力時の解像度を設定する

カメラとテレビや外部記録機器などを HDMI ケーブルで接続し、カメラに記録されている映像を出力するときに、解像度を設定することができます。



1 [HDMI 出力解像度]

自動	接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
1080p	1080p の解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

HDR 対応テレビで RAW 画像を見る

HDR 対応テレビにカメラをつないで、RAW 画像を HDR 表示で見ることができます。



1 [HDMI HDR 出力]

- [HDMI HDR 出力]を［入］にすると、HDR テレビの特性にあった色で画像が表示されます。
- HDR 対応テレビの設定が、HDR 入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- RAW バーストモードで撮影した画像（ロール）のときは、HDR 出力は行われません。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDR テレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

撮影時の情報の表示内容を設定する

撮影時にモニターに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。グリッド、ヒストグラムを設定することもできます。



1 [撮影情報表示設定] → [モニター情報表示カスタマイズ]



2 ▲／▼ボタンを押して画面を選ぶ

- 非表示にする画面は、(SET)ボタンを押して[✓]を外します。
- ✳ボタンを押すと画面の編集ができます。



3 画面を編集する

- ▲／▼ボタンで項目を選びます。
- (SET)ボタンで、表示する項目に[✓]を入れます。
- [OK]を選ぶと設定されます。

- 動画モードのとき、[撮影情報表示設定] → [記録中の強調表示] で、動画撮影中、撮影画面に赤枠を表示するかしないかを設定できます。
- 動画モードのとき、[撮影情報表示設定] → [アスペクトマーカー] で、撮影画面に表示されるアスペクトマーカーを設定できます。
- [撮影情報表示設定] → [グリッド] で、グリッドの設定を行うことができます。
- [撮影情報表示設定] → [ヒストグラム] で、表示するヒストグラムを、輝度ヒストグラムから RGB ヒストグラムに変えたり、表示サイズを変えることができます。

鏡像表示の設定を変える

撮影モードで画面を開き、画面をレンズ側に向けた際に、画像が鏡像（左右反転）で表示されるようにするかどうかを設定できます。



1 [鏡像表示]

距離表示の単位を変える

ズームバー（📖98）、MF インジケーター（📖101）などの表示単位を、m/cm から ft/in（フィート／インチ）に変えることができます。



1 [単位]

機能ガイドを設定する

クイック設定画面で項目を選んだとき、機能の説明を表示するかどうかを設定できます。



1 [機能ガイド]

カメラの詳細機能を設定する

カメラの詳細機能を変えることができます。



1 [カスタム機能 (C.Fn)]



2 項目を選ぶ

- ◀/▶ボタン→(SET)ボタン

3 設定する

C.Fn I：露出 セイフティシフト	[1: する] に設定すると、**Tv**／**Av**モードで設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないとき、標準露出に近づけるように自動的にシャッタースピードや絞り数値が変更されるようになります。
C.Fn II：その他 コントローラーリングの回転	リングの回転方向を変えることができます。
C.Fn II：その他 コントローラーホイールの回転	ホイールの回転方向を変えることができます。
C.Fn II：その他 操作ボタン カスタマイズ	シャッターボタンなどの操作ボタンの機能を変えることができます。

- C.Fn-2、C.Fn-3 を［1：設定方向を反転］に設定しても、リングまたはホイールに割り当てられている機能が、シャッタースピード、絞り数値、プログラムシフト以外のときは、回転方向は変わりません。
- ［カスタム機能 (C.Fn)］で設定した機能（［操作ボタン カスタマイズ］の設定以外）を初期状態に戻すときは、［カメラの初期化］→［基本以外の設定］→［カスタム機能 (C.Fn)］→［OK］を選びます。

操作ボタンをカスタマイズする

シャッターボタンなどの操作ボタンの機能を変えることができます。
✳（AE ロック）ボタンとリングとホイールの設定は、**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**C**モードのとき、有効です。
［シャッターボタン半押し］と［動画ボタン］の設定は、**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**C**モードのとき、有効です。



1 ［C.Fn II：その他 操作ボタン カスタマイズ］



2 ボタンを選ぶ



3 機能を選ぶ

- ◯リングに［露出補正］の機能を割り当てることができます。操作ボタンカスタマイズの設定画面で、［◯］を選び、［±］に設定したあと撮影画面に戻り、露出補正ダイヤルを「●」の位置にすると、◯リングで露出補正を行うことができます。
- **P**モード、露出補正ダイヤル:「●」位置、◯リング:［STD］、⊛ホイール:［STD］設定時は、測光タイマー作動中に、⊛ホイールで露出補正を行うことができます。
- ◯リングで設定できる内容は、撮影モードにより（**P**／**Tv**／**Av**／🎥モードと**M**／🎥モードで）異なります。
- ［操作ボタン カスタマイズ］の設定を初期状態に戻すときは、🔧［カメラの初期化］→［基本以外の設定］→［操作ボタン カスタマイズ］→［OK］を選びます。
- 設定した機能によっては、動画モードのときに機能しない（無効になる）ことがあります。

［STD］のときに設定できる内容について

項目	設定	撮影モード		
		P	**Tv**	**Av**
◯リング	STD	プログラムシフト	シャッタースピード	絞り数値
⊛ホイール	STD	—	—	—

* ◯リング：［STD］以外、⊛ホイール：［STD］設定時は、⊛ホイールで、**P**モード：プログラムシフト、**Tv**モード：シャッタースピード、**Av**モード：絞り数値の設定ができます。
* **M**／🎥モード、⊛ホイール：［STD］設定時は、◯リングを［**Av**］（または［**Tv**］）に設定すると、⊛ホイールでシャッタースピード（または絞り数値）の設定ができます。

カスタム撮影モード（C モード）

よく使う撮影モードと、自分好みに設定した各機能の設定を登録することができます。登録された設定へは、モードダイヤルを**C**にするだけで、切り換えることができます。また、撮影モードを切り換えたり、電源を切ったりすると解除されてしまう設定も記憶します。

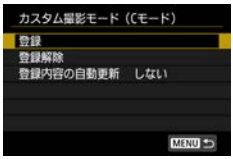
登録できる設定

- 撮影モード（**P**／**Tv**／**Av**／**M**）
- **P**／**Tv**／**Av**／**M**モードで設定できる機能（一部の機能を除く）
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置（101）

1 登録したい撮影モードにして、各種機能を設定する



2 [カスタム撮影モード (C モード)]



3 [登録]

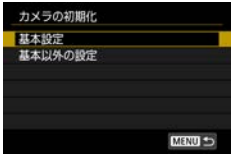
- 一度登録した、設定の一部（撮影モード以外）を変えるときは、Cを選んで設定を変え、もう一度 [カスタム撮影モード (C モード)] → [登録] を選びます。この設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- 登録した設定を初期状態に戻すときは、[カスタム撮影モード (C モード)] → [登録解除] を選びます。
- [カスタム撮影モード (C モード)] → [登録内容の自動更新] → [する] に設定すると、Cモードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます。

カメラの設定を初期状態に戻す

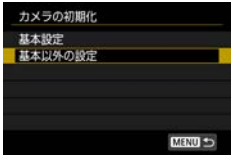
P／Tv／Av／M／モードのときにカメラの設定を初期状態に戻すことができます。



1 ［カメラの初期化］



- 基本設定を初期化する：［基本設定］→［OK］



- 基本以外の設定を初期化する：［基本以外の設定］→項目を選ぶ→［OK］

- 次の機能は初期状態に戻りません。
  - ［日付 / 時刻 / エリア］
  - ［言語］
  - ［ビデオ方式］

画像に記録する著作権の情報を登録する

作成者名や著作権者名を登録しておくと、撮影した画像に記録できます。



1 [著作権情報] → [作成者名入力] または [著作権者名入力]



- 名前を入力→MENUボタン→ [OK]

- 入力した内容は、[著作権情報] → [著作権情報の表示] で確認できます。
- 登録されている作成者名と著作権者名は、[著作権情報] → [著作権情報の消去] でまとめて消せますが、画像に記録されている著作権情報は消されません。

QR コードから使用説明書やソフトウェアをダウンロードする

使用説明書とソフトウェアをダウンロードするためのアクセス用 QR コードをカメラの画面に表示できます。



1 [使用説明書・ソフトウェア URL]

認証マークを表示する

このカメラが対応している認証マークの一部は、画面に表示して確認できます。



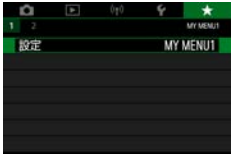
1 [認証マーク表示]

よく使う撮影メニューを登録する（マイメニュー）

よく使う撮影メニューの項目を、★タブに 6 項目まで登録できます。★タブに登録すると、項目を 1 つの画面で表示できるため、素早く設定を変えられます。



1 ★［マイメニュータブの追加］→［OK］



2 ★［設定］



3 ［登録項目の選択］

- 項目を選ぶ→［OK］
- 選んだ項目がマイメニュータブに登録されます。



項目の表示順を変えるとき

- ［登録項目の並べ替え］→表示順を変えたい項目を選ぶ→▲／▼ボタンで表示順を変える→㊗ボタン

- マイメニュータブは［★5］まで追加することができます。
- 追加したマイメニュータブで［設定］→［タブ内の全項目削除］→［OK］を選ぶと、タブに登録したすべての項目が削除されます。

マイメニュータブのタブ名を変える



1 ［タブ名の変更］

2 タブ名を変更する
- タブ名を入力→MENUボタン→［OK］

マイメニュータブを削除する



1 ［タブの削除］

マイメニュータブをすべて削除する



1 ★［マイメニュータブの全削除］

登録項目をすべて削除する



1 ★［全項目削除］

マイメニューの表示方法を変える

撮影モードでMENUボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。



1 ★［メニュー表示］

通常表示	前回の操作で最後に表示していたメニュー画面が表示されます。
マイメニュータブから表示	★タブの画面から表示されます。
マイメニュータブのみ表示	★タブの画面だけが表示されます。

アクセサリー

別売りのアクセサリーや市販の対応機器を使って、カメラの楽しみかたを広げることができます。

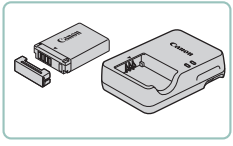
アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

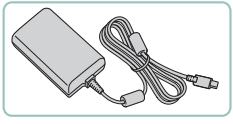


バッテリーパック NB-15L、NB-13L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LH シリーズ

- バッテリーパック NB-15L/NB-13L 用のバッテリーチャージャーです。



USB 電源アダプター PD-E1

- カメラを家庭用電源で使用するためのアダプターです。

- NB-15L は、カメラのファームウェアを Ver.1.4.0 以上にしてお使いください。
- バッテリーチャージャー、および USB 電源アダプターは、AC 100 – 240 V 50/60 Hz の地域で使えます。
- プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

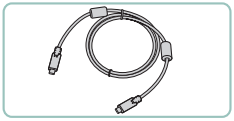
ストロボ



ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。

その他



インターフェースケーブル IFC-100U

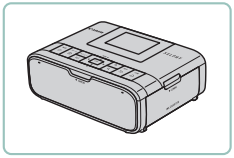
- パソコンとカメラをつなぐケーブルです。



ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

- Bluetooth 対応のワイヤレスリモコンです。

プリンター



キヤノン製 PictBridge 対応プリンター

- プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに撮影した画像を印刷できます。

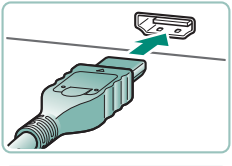
別売アクセサリーの使いかた

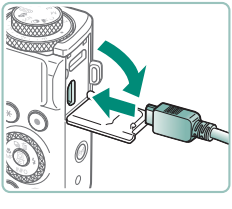
テレビで見る

市販の HDMI ケーブル（長さ 2.5m 以下、カメラ側端子はタイプ D）でカメラと HD 対応テレビをつないでカメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。また、カメラの画面表示をテレビに表示して撮影できます。
なお、お使いになるテレビとのつなぎかたや入力の切り換えかたについては、テレビの使用説明書を参照してください。

1 カメラとテレビの電源を切る

2 カメラとテレビをつなぐ





3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ



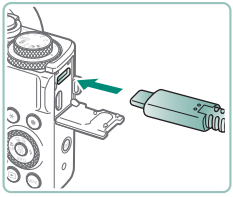
4 再生表示にする

- 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。

- テレビに表示しているときは、一部の情報が表示されないことがあります。
- HDMI 出力中に 4K 動画とハイビジョン画質の動画を切り換えたり、異なるフレームレートの動画に切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。

USB 電源アダプターを使って充電／給電する

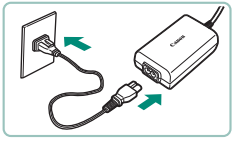
USB 電源アダプター PD-E1（別売）を使用すると、カメラ内のバッテリーを充電しながらカメラを使うことができます。



1 カメラの電源を切る

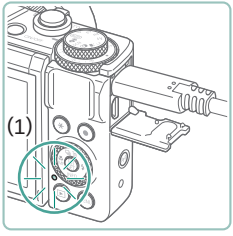
2 USB 電源アダプターを接続する

- アダプターのプラグを図のように差し込みます。



3 電源コードを接続する

- 電源コードを USB 電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



- 充電が始まり、ランプ（1）がオレンジ色に点灯します。
- カメラの電源を入れると、バッテリーを充電しながら（撮影待機状態および撮影時を除く）、カメラを使うことができます。
- 充電が完了すると、ランプが消灯します。

- マークの意味は以下の通りです。
  ：充電／給電中、：給電のみ、FULL：充電完了
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（ランプ（背面）がオレンジ色で点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2 ～ 3 分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。

リモコン撮影する

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）を使って、撮影することができます。
ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書もあわせて参照してください。



1 ペアリングする

- [Wi-Fi/Bluetooth 接続] →［］（ワイヤレスリモコンと接続）→［接続先の機器の追加］

2 BR-E1 の W ボタンと T ボタンを同時に 3 秒以上押す

- ペアリングが行われます。



3 リモコン撮影できるように設定する

- 静止画撮影：▲ボタン→［］



- 動画撮影のときは、［リモコン撮影］が［する］に設定されていることを確認してください。

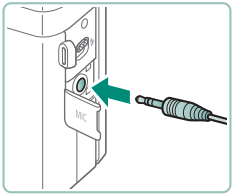
4 撮影する

- 動画撮影は、リモコンの撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを の位置にして、レリーズボタンを押します。

- オートパワーオフを 1 分以下に設定していても、約 2 分でオートパワーオフになります。
- ペアリングを解除するときは、[Wi-Fi/Bluetooth 接続] → [] → [接続情報の削除] → [OK] を選んでください。

外部マイクを使う

外部マイク入力端子（32）に、ミニプラグ（φ 3.5mm）を備えた市販のマイクをつなぐと、外部マイクで録音されます。なお、外部マイクをつないだときは、内蔵マイクによる録音はされません。



1 外部マイクを接続する

- 外部マイクのプラグを図のように差し込みます。

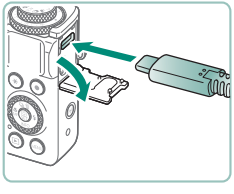
- アッテネーターを使うと、外部マイクにも設定が反映されます。
- 外部マイクをつないだときは、[ウィンドカット] は [切] に固定されます。

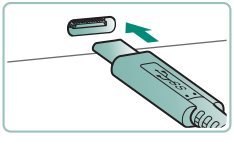
画像をパソコンに取り込む

インターフェースケーブル IFC-100U（別売／パソコン側の端子は USB Type-C®）でカメラとパソコンをつなぐと、撮影した画像をパソコンへ取り込むことができます。パソコンとのつなぎ方については、パソコンの使用説明書を参照してください。

1 カメラの電源を切る

2 カメラとパソコンをつなぐ





3 カメラの電源を入れる

4 画像を取り込む

- パソコンに標準でインストールされているソフトウェアや汎用のソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

- 市販のカードリーダーを使用して画像の取り込みを行うこともできます。

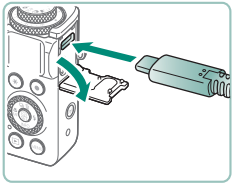
印刷する

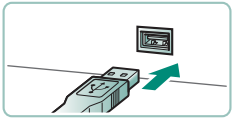
PictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンターに市販の USB ケーブル（カメラ側端子は Type-C）でカメラをつなぐと、撮影した画像を印刷することができます。
ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CP シリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

---

1 カメラとプリンターの電源を切る

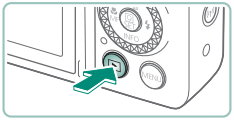
2 カメラとプリンターをつなぐ





3 プリンターの電源を入れる

4 再生表示にして画像を選ぶ





5 印刷画面を表示する

- ㊗ボタン→［この画像を印刷］



6 ［印刷］

付録

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラやモニターに水滴や汚れがついたときは、眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは、絶対にカメラやモニターを拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- バッテリーはビニール袋などに入れて保管してください。また、バッテリーの性能を維持するために、長期間使わないときは 1 年に 1 回程度充電し、使い切ってから保管してください。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、修理受付窓口へご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。バッテリーの端子部が他の金属にふれないようにして、ポケットなどで温めてからお使いください。
- バッテリーの端子が汚れているとバッテリー性能が低下します。綿棒などで端子を拭き、バッテリーを数回入れなおしてください。
- 上記を確認しても、充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

バッテリーがふくらむ

- バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、修理受付窓口へご相談ください。

撮影

撮影できない

- 再生表示のときは、シャッターボタンを半押ししてください。

撮影中の画面表示がおかしい

- 次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。
  - 蛍光灯や LED などの照明下で撮影すると、画面がちらついたり横帯が表示されたりすることがあります。

動画の撮影や再生が途中で止まる

- [4K 29.97P] [4K 23.98P] [4K 25.00P] は、UHS-I（UHS スピードクラス 3）以上のカードをお使いください。
- ハイフレームレート動画撮影時は、UHS-I（UHS スピードクラス 3）以上のカードをお使いください。
- ① 4K タイムラプス動画、②フル HD タイムラプス動画、③プラスムービーオートで撮影した動画を再生するときは、読み取り速度が①約 300Mbps、②③約 90Mbps 以上のカードを使用してください。遅いカードを使用すると、動画の再生が途中で止まることがあります。

[🌡] が表示されて自動的に電源が切れる

- 長時間撮影したり、高温下で撮影すると、もうすぐ電源が自動的に切れることを示す［🌡］が表示されます。そのときは、電源を切って、カメラ内部の温度が下がるまで待ってください。

連続撮影の速度が極端に遅くなる

- 高温下で連続撮影すると、速度が極端に遅くなることがあります。そのときは、電源を切って、カメラ内部の温度が下がるまで待ってください。

[📹] が表示される

- 以下の設定で動画を繰り返し撮影したり、撮影待機状態を長時間続けると、［📹］が表示されることがあります。
  - 4K 動画撮影
  - ハイフレームレート動画撮影
  - Wi-Fi 接続時の動画撮影

  ［📹］が表示されたまま撮影を継続すると、約 3 分後に自動的にカメラの電源が切れます。また、［📹］が表示されたまま撮影待機状態を続けたときも、自動的にカメラの電源が切れることがあります。［📹］が表示されたときは、カメラの電源を切って、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。
- カメラの温度管理を正常に行うには、日付／時刻／エリアの設定が必要です。日付／時刻／エリアの設定を行うと、温度警告表示が適切に行われます。

- ［温度上昇のため電源が切れます］と表示されたときは、カメラの電源を切って、少なくとも約 5 分お待ちください。なお、4K 動画で最長 9 分 59 秒、ハイフレームレート動画で最長 7 分 29 秒の動画撮影を行うときは、カメラの電源を切って 20 分以上お待ちください（撮影環境や使用条件により、実際に動画撮影できる時間が上記時間よりも短くなることがあります）。

画質が悪い

- カメラ内部の温度が高い状態で撮影を行うと、画質が低下することがあります。

画像がボケて撮影される

- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- AF ロックで撮影してください。

シャッターボタンを半押ししても、AF フレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すと AF フレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- 露出補正で明るさを補正してください。
- AE ロックまたはスポット測光で撮影してください。

被写体が明るすぎる（白トビする）

- 露出補正で明るさを補正してください。
- AE ロックまたはスポット測光で撮影してください。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる

- 調光補正量や発光量で明るさを補正してください。
- ISO 感度を高くしてください。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）

- 調光補正量や発光量で明るさを補正してください。

動画撮影

被写体がゆがんで見える

- 撮影中に被写体がカメラの前を素早く横切ったときは、ゆがんで見えることがあります。

Wi-Fi

(ᯤ)ボタンを押しても Wi-Fi メニューを表示できない

- カメラをプリンターまたはパソコンとケーブルでつないでいるときは Wi-Fi メニューは表示できません。ケーブルを外してください。

アクセスポイントに接続できない

- アクセスポイントが、カメラの対応チャンネルで通信していることを確認してください。また、アクセスポイントのチャンネル選択が自動のときは、カメラが対応するチャンネルのいずれかに手動で固定することをおすすめします。なお、カメラの対応チャンネルは、弊社 Web ページでご確認ください。

画像の送信に時間がかかる／無線接続が切断されてしまう

- Wi-Fi の電波状態が悪くなるため、電子レンジなど、2.4 GHz 帯の周波数を使用する機器の近くでは使用しないでください。
- 本製品と接続先の機器（アクセスポイントなど）を近づけて、その間に物を置かないでください。

スマートフォンと Bluetooth 接続ができない

- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 を使用しているときは、スマートフォンと Bluetooth 接続することはできません。

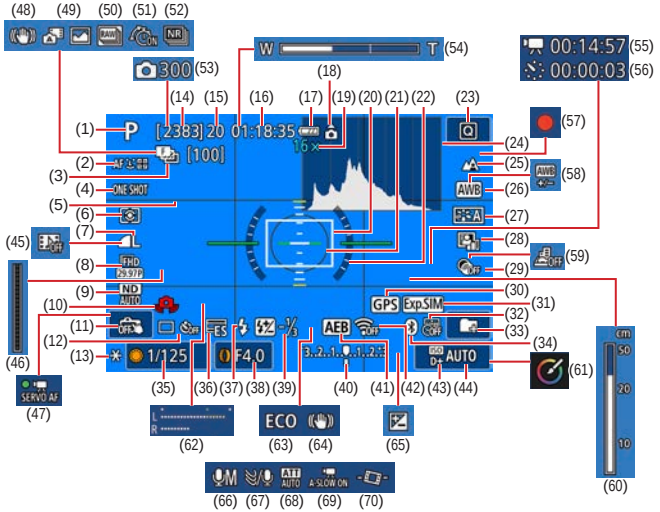
エラー表示

エラー番号（Errxx）と原因・対処方法が表示される

- カメラに異常が発生すると表示されます。問題が解決しないときは、エラー番号（Errxx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。
- 無線機能に関するエラーは、[Wi-Fi/Bluetooth 接続]の画面の右上に、エラー番号（Errxx）が表示されます。✳ボタンを押すと、情報表示の画面でエラーの内容が表示されます。

画面の表示内容一覧

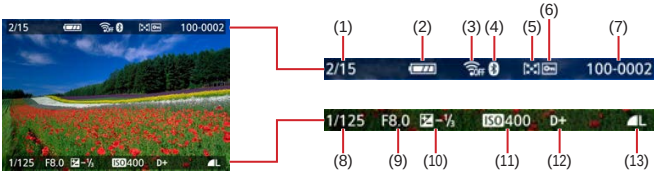
撮影時



(1) 撮影モード、シーンアイコン
(2) AF 方式
(3) フォーカスブラケット撮影／撮影回数
(4) AF 動作
(5) グリッドライン
(6) 測光モード
(7) 記録画質
(8) 動画記録画質
(9) ND フィルター
(10) 手ブレ警告
(11) タッチシャッター
(12) ドライブモード／セルフタイマー
(13) AE ロック
(14) 撮影可能枚数／
RAW 撮影可能ロール数

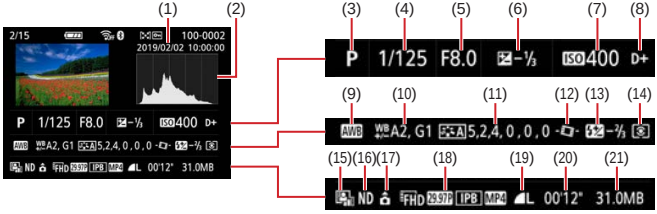
(15) 連続撮影可能枚数／
RAW連続撮影可能ロール数（1 固定）
(16) 動画撮影可能時間
(17) バッテリー残量表示
(18) 動画回転情報
(19) ズーム倍率、デジタルテレコンバーター
(20) AF フレーム
(21) スポット測光枠
(22) 水準器
(23) クイック設定
(24) ヒストグラム
(25) フォーカスゾーン
(26) ホワイトバランス
(27) ピクチャースタイル
(28) オートライティングオプティマイザ
(29) クリエイティブフィルター
(30) Bluetooth スマートフォン連携
GPS 情報取得状態
(31) 露出 Simulation
(32) 日付写し込み
(33) フォルダ作成
(34) Bluetooth 通信状態
(35) シャッタースピード
(36) 電子シャッター
(37) ストロボモード／ FE ロック
(38) 絞り数値
(39) ストロボ調光補正／発光量
(40) 露出レベル表示
(41) AEB 設定
(42) Wi-Fi 通信状態
(43) 高輝度側・階調優先
(44) ISO 感度
(45) ビデオスナップ
(46) RAWインジケーター
(47) 動画サーボ AF
(48) マルチシーン IS
(49) プラスムービーオートモード／ダイジェスト形式
(50) RAW バーストモード
(51) RAWプリ撮影
(52) マルチショットノイズ低減
(53) 撮影回数
(54) ズームバー
(55) 撮影所要時間
(56) 撮影間隔
(57) 自分撮り動画
(58) ホワイトバランス補正
(59) ジオラマ風動画
(60) MF インジケーター
(61) クリエイティブアシスト
(62) 録音レベルメーター
(63) エコモード
(64) 手ブレ補正
(65) 露出補正
(66) 録音モード
(67) ウィンドカット
(68) アッテネーター
(69) オートスローシャッター
(70) 自動水平補正

再生時



(1) 再生画像／対象画像数
(2) バッテリー残量
(3) Wi-Fi 通信状態
(4) Bluetooth 通信状態
(5) レーティング
(6) 保護
(7) フォルダ番号 - 画像番号
(8) シャッタースピード
(9) 絞り数値
(10) 露出補正量
(11) ISO 感度
(12) 高輝度側・階調優先
(13) 記録画質*

*クリエイティブフィルター、RAW 現像、リサイズ、クリエイティブアシスト、トリミング、赤目補正を行った画像に［ ］と表示されます。また、トリミングした画像では［ ］と表示されます。



(1) 撮影日時
(2) ヒストグラム
(3) 撮影モード／RAW バーストモード
(4) シャッタースピード
(5) 絞り数値
(6) 露出補正量
(7) ISO 感度
(8) 高輝度側・階調優先
(9) ホワイトバランス
(10) ホワイトバランス補正量
(11) ピクチャースタイル設定内容
(12) 自動水平補正
(13) 調光補正量／マルチショットノイズ低減
(14) 測光モード
(15) オートライティングオプティマイザ
(16) ND フィルター
(17) 動画回転情報
(18) 動画記録サイズ
(19) 記録画質*
(20) 動画記録時間／RAW バーストモード
(21) ファイルサイズ

*クリエイティブフィルター、RAW 現像、リサイズ、クリエイティブアシスト、トリミング、赤目補正を行った画像に［ ］と表示されます。また、トリミングした画像では［ ］と表示されます。

無線機能について

- 本製品のうち、外国為替および外国貿易法により規制されている貨物または技術に該当するものを外国へ輸出（外国への持ち出し、国内における非居住者への開示を含む。）する場合、必要に応じ日本政府の輸出許可または役務取引許可を受ける必要があります。
- 本製品には、米国製暗号化品目が搭載されているため、米国輸出管理規制（EAR）の対象となり、米国禁輸国への輸出や持ち出しはできません。
- ご使用になる Wi-Fi の設定については、必ず控えを取ってください。
本製品に登録した無線機能の設定は、誤操作、電波や静電気の影響、事故、故障などによって変質したり消失したりする場合があります。
弊社の責によらずに内容の変質や消失が生じた結果による、直接または間接の損害および逸失利益について、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本製品を譲渡、廃棄、または修理の依頼をするときは無線機能の設定を初期化（消去）してください。
- 紛失や盗難などによる損害の補償はいたしかねます。
紛失や盗難などによって、本製品に登録されている接続先への不正アクセス・利用がされるなどの結果、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本書に記載している使用方法をお守りください。
本製品の無線機能は、この使用説明書に記載している範囲内でお使いください。それ以外の用途や用法で使用した結果、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

セキュリティーについて

Wi-Fi は電波を使って通信するため、LAN ケーブルを使う有線 LAN よりもセキュリティーに注意する必要があります。
Wi-Fi をお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 使用権限があるネットワークだけを使う
  本製品は、周辺の Wi-Fi ネットワークを検索して画面に表示します。そのため、使用する権限がない（知らない）ネットワーク名も表示されることがあります。しかし、それらのネットワークに接続しようとしたり接続して利用したりすると、不正アクセスと見なされる恐れがあります。使用する権限があるネットワークだけを利用し、それ以外のネットワークには接続しないように注意してください。

また、セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
  悪意ある第三者によって Wi-Fi の電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、Wi-Fi のセキュリティーを確保するための仕組みや機能を必ず使ってください。
Wi-Fi のセキュリティーについて理解し、利便性とリスクのバランスをよく考えたセキュリティーに関する設定を行った上で、本製品の Wi-Fi 機能をお使いいただくことをおすすめします。

第三者のソフトウェア

- AES-128 Library
  Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

  LICENSE TERMS
  The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:
  1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
  2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
  3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

  DISCLAIMER
  This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

- CMSIS Core header files
  Copyright (C) 2009-2015 ARM Limited.
  All rights reserved.

  Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
  - Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
  - Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
  - Neither the name of ARM nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

  THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- KSDK Peripheral Drivers, Flash / NVM, KSDK H/W Abstraction Layer (HAL)
(c) Copyright 2010-2015 Freescale Semiconductor, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
* Neither the name of the <organization> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL <COPYRIGHT HOLDER> BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

カメラを貸出・修理依頼・譲渡・廃棄するときのご注意

カメラに個人情報を登録したり Wi-Fi のパスワードなどのセキュリティ情報を設定したときは、それらの情報がカメラ内に残っている可能性があります。
カメラを貸したり修理などで一時的に手放すときや、譲渡または廃棄するときは、情報の漏洩を避けるため、以下の作業を行ってください。

- 設定したセキュリティ情報は、(ᯤ)［無線通信の設定初期化］を使って消してください。

商標、ライセンスについて

- Microsoft、Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- DCF は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- App Store、iPhone、iPad、AirPrint は、Apple Inc. の商標です。
- SDXC ロゴは、SD-3C LLC. の商標です。
- QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™ および Wi-Fi Protected Setup™ は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- USB Type-C® および USB-C® は USB Implementers Forum の登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setup を意味しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。
- 本機器は、Microsoft からライセンスされた exFAT 技術を搭載しています。

- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.
- THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE **HTTP://WWW.MPEGLA.COM**

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

このガイドについて

- 内容を無断で転載することは、禁止されています。
- 記載されている数値はすべて当社試験基準によります。
- 内容および製品の仕様や外観を将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- 本製品を運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

索引

数字
1 点 AF 152

アルファベット

A
AEB 撮影 123
AE ロック 99
AF フレーム 45, 153
AF 方式 152
AF 補助光 155
AF ロック 104
Av（撮影モード）94

B
Bluetooth 222, 254

C
Camera Connect 222
C（撮影モード）285

D
DPOF 201

F
FE ロック 111

G
GPS 情報記録 232

H
HDMI ケーブル 297
HDR 絵画調標準（撮影モード）85
HDR 逆光補正（撮影モード）66
HDR グラフィック調（撮影モード）85
HDR 動画 91
HDR ビンテージ調（撮影モード）85
HDR 油彩調（撮影モード）85

I
image.canon 242
ISO 感度 125, 128

M
MF（手動ピント合わせ）101
MF ピーキング 103
MWB 139
M（撮影モード）95

N
ND フィルター 132

P
PictBridge（ピクトブリッジ）234, 296, 304
P（撮影モード）92

R
RAW 106
RAW 現像 205, 208
RAW バーストモード 119

T
Tv（撮影モード）93

V
Video Blog 撮影モード 89

W
Web サービスへの送信 242
Wi-Fi 機能 221

かな

あ
赤目補正 209
アクセサリー 295
アスペクト比 108
圧縮率 106
アッテネーター 167

い
色あい（ホワイトバランス） 137
色温度 137
色の濃さ 143
印刷 201, 234, 304
インデックス表示 185

う
ウィンドカット 167
打ち上げ花火（撮影モード） 66

え
エコモード 264
エラー表示 312

お
オートモード（撮影モード） 56
オートライティングオプティマイザ 130
お気に入り設定（レーティング） 215

か
カード 22
階調優先 131
回転 196, 197
外部マイク 302
顔＋追尾優先 AF 152
拡大表示 183
画質 106
カスタム機能 282
画像
　消す 198
　表示時間 109
　保護 193
画像番号 258
画像プロテクト 193
画像を送る 242
画像をパソコンに取り込む 303
カメラ
　設定初期化 287
画面
　表示一覧 313
　表示言語 25, 269

き
魚眼風（撮影モード） 84
記録画質 106
記録画素数（画像の大きさ） 106

く
クイック設定画面 41
　基本操作 37
　タッチ操作 49
クリエイティブアシスト（再生） 207
クリエイティブアシスト（撮影） 60
クリエイティブフィルター（撮影モード） 82
グリッドライン 277

け
消す 198
検索 217

こ
高感度撮影時のノイズ低減 147
高輝度側・階調優先 131
故障 308
コンティニュアス AF 154

さ
サーボ AF 151
撮影
　撮影情報 313

し
ジオラマ風（撮影モード） 84, 87
ジオラマ風動画 170
自分撮り（撮影モード） 64, 67
自分撮り動画 176
ジャンプ表示 218
充電 21, 299

す
水彩風（撮影モード） 84
水平補正 162
ズーム 29, 56, 98, 105
ストラップ 20
ストロボ
　スローシンクロ 110
　調光補正 113
　発光禁止 110
　発光タイミング 115
　モード 110
スポット 1 点 AF 152
スマートフォンへの送信 224, 231
スライドショー 216

せ
接続情報の変更 / 削除 255
設定初期化 287
節電 265
セルフタイマー 118, 177

そ
測光方式 133
ソフトウェア
　パソコンへの自動送信 238
ソフトフォーカス（撮影モード） 83

た
タイムラプス動画（撮影モード） 174
タッチシャッター 149
縦横比を変える 108
端子 297, 303, 304

ち
調光補正 113
長時間露光 97

て
デジタルズーム 98
デジタルテレコンバーター 163
手ブレ補正 160
手持ち夜景（撮影モード） 65
テレビで見る 297
電源 295
電子音 273
電子シャッター 150

と
トイカメラ風（撮影モード） 84
動画
　アルバム編集 210
　記録サイズ 164
　サーボ AF 168
　編集 186
動画マニュアル露出（撮影モード） 90
トリミング（画像の切り抜き） 212

な
流し撮り（撮影モード） 70

は
背景ぼかし（撮影モード） 83
ハイフレームレート 165
パソコンへの取り込み 303
発光禁止 110
バッテリー
　エコモード 264
　充電 21, 299
　節電 265
バッテリーチャージャー（充電器） 295
パノラマ（撮影モード） 68
バルブ撮影 97

ひ
ピクチャースタイル 141, 143, 146
ピクトブリッジ（PictBridge） 234, 296, 304
日付／時刻／エリア
　設定 25
　変更 268
ビデオスナップ 172, 210
ビデオ方式 271
美肌（撮影モード） 64
表示一覧 313, 315
表示言語
　設定 25
　変更 269
ピント合わせ
　AF フレーム 152
　AF ロック 104
　MF ピーキング 103
　サーボ AF 151
ピント位置拡大 101

ふ
フォーカスゾーン
　マクロ 100
　マニュアルフォーカス 101
フォーカスブラケット撮影 156
フォトブック指定 203
プラスムービーオート（撮影モード） 62
プログラム AE 92
プロテクト 193

へ
編集
　赤目補正 209
　トリミング（画像の切り抜き） 212
　リサイズ（画像を小さくする） 214

ほ
ポートレート（撮影モード） 64
保護 193
星空軌跡（撮影モード） 76
星空タイムラプス動画（撮影モード） 78
星空ポートレート（撮影モード） 71
星空夜景（撮影モード） 74
ホワイトバランス（色あい） 137

ま
マイメニュー 291
マクロ（フォーカスゾーン） 100
マニュアルフォーカス（フォーカスゾーン） 101
マニュアルホワイトバランス 139
マルチショットノイズ低減機能 147

み
見る 31, 181
　1 枚表示 181
　インデックス表示 185
　拡大表示 183
　画像の検索 217
　ジャンプ表示 218
　スライドショー 216
　タッチ操作 52
　短編動画（ダイジェスト動画） 184
　テレビで見る 297

む
無線機能 221, 317

め
メニュー
　一覧 42
　基本操作 39
　タッチ操作 50

ら
ライブ配信 246
ラフモノクロ（撮影モード） 83
ランプ 155

り
リサイズ（画像を小さくする） 214
料理（撮影モード） 65

れ
レーティング 215
連続撮影 117

ろ
露出
　AE ロック 99
　FE ロック 111
　補正 122